

# 社 会 科 教 室

第 163 号

平成 27 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会  
香川県小学校社会科教育研究会



## 全国大会に向けて「子どもありき」の研究を

平成27年度も、定例研修会、夏季研修会、研究フォーラムなどを予定どおり実施することができました。また、全国大会に向けての研究面、運営面からの準備もすすめることができつつあります。ほんとうに有り難いことだと感謝しております。

定例研修会では、久しぶりに授業を参観しての討議というスタイルが復活しました。また、ベテランの先生による不易の社会科の提案、若手の先生によるチャレンジ精神あふれる提案等、香社研を支える先生方の層の厚さを感じるものが多々ありました。

夏季研修会では、昭和小学校を会場に、会場校の先生方や担当郡市である坂綾支部の先生方の温かさときめ細やかな配慮を感じることができ、そんな雰囲気の中で各支部がそれぞれの強みを活かしたワークショップ型の実践発表を行うことができました。

研究フォーラムでは、各郡市の先生方から、先進的かつ開発的な発表をしていただきました。全国大会で各郡市が担当する課題研究会につながる発表であったように思います。

全国大会に向けての動きとしては、6月16日、17日の2日間にわたって、文部科学省の澤井陽介教科調査官にお越しいただき、16日には十河小学校で、17日には観音寺小学校で研究授業をご参観いただいた後、全国大会に向けての研究の方向性をご示唆いただくことができました。

また、10月22日には、十河小学校に帝京大学の中田正弘先生をお迎えして、研究授業を行い、2月8日には、観音寺小学校に國學院大學の安野功先生をお迎えして研究授業を行いました。各会場校において、全国大会当日の指導者の先生からご指導をいただきながら、全国大会に向けての研究を積極的に推進していただいております。

さらに、本年度より全国大会に向けての実行委員会を本格的に立ち上げ、年間3回の会をもちました。総務部、研究部、庶務部、編集部、宿泊輸送部の5つの部に分かれて、準備を進めていただいております。

いよいよ全国大会が近づいてきました。会場校における実践研究も、次期学習指導要領の方向性を見極めながら、まとめにに向けて動き始める時期になりました。このように研究が進んできたときこそ、香社研の先達が書かれた以下のような文章が思い出されます。

【現場で行う研究というものは、ある特別の時でしか出来ないようなものや長続きしない理論や指導方法などを論文にまとめて終わる、というものであってはならない。現場人の行う研究というものは「この子どもを見てください」と言えるような、子どもをどこまで育て得たのかを最も大切にするものでなければならない。】

研究が進めば進むほど、子どもから離れがちになるのが研究の常です。そんな時こそ、原点に立ち返り、子どもの事実認識の実態から離れない、子どもの意識の流れから離れない、子どもありきの研究を進めて欲しいと願っています。

そして、来る全国大会では、社会科への思いと志を一つにする先生方の力を結集して、香川の社会科を全国に発信したいものです。

香川県小学校教育研究会社会科部会  
香川県小学校社会科研究会  
(部) 会長 柴田 英明



## 平成27年度事業報告

### ① 定例研究集会, 夏季研修会, 会場校事前研修会

#### 【定例研修会】

#### ○ 6月定例会

月 日 : 6月20日(土)8:40~12:00

場 所 : 善通寺市立西部小学校

テーマ : 「人間の営みに学び 広い視野を育てる社会科学習」

授業者 : 藤田 啓明先生(善・西部小)

第5学年「わたしたちの国土ー善通寺市ってどんな町?ー」

提案者 : 滝井 康隆先生(仲・四箇小)

司会者 : 尾崎 純一先生(善・筆岡小)

指導者 : 佐柳 仁先生(まんのう町教育委員会学校教育課主任指導主事)

#### ○ 7月定例会

月 日 : 7月4日(土)9:15~11:50

場 所 : マリンウェーブ

テーマ : 『「今」を見つめ, 「未来」を切り拓く社会科学習の創造ー基礎的・基本的内容を身に付け, 自ら問いを追究する社会科学習ー』

提案者 : 合田 雅気先生(観・常磐小)

「社会科授業についての実践提案」

司会者 : 岩橋 秀司先生(三・財田中小)

講 話 : 安藤 清和先生(香社研OB・三豊市教育委員会生涯学習課)

#### ○ 10月定例会①

月 日 : 10月3日(土)9:15~12:00

場 所 : 香川大学教育学部附属高松小学校 恵心館2階

テーマ : 【小豆】「社会認識を深め, 社会に関わる力を育てる学習」

【さ東】「思考力の育成をめざした学習プランの開発」

提案者 : 【小豆】平林 泰徳先生(土・土庄小)



第5学年「情報化した社会とわたしたちの生活」(実践者：白川麻里先生(小・苗羽小))

【さ東】岩澤 直也先生(さ・志度小)

第4学年「和三盆糖をつくる 古い街並みを保存するまち」東かがわ市「引田」

司会者：母倉 秀敏先生(小・池田小)

指導者：役重 和雅先生(土庄町教育委員会主任指導主事)

佐藤 正文先生(香社研OB・東かがわ市こども総合支援センター所長)

## ○ 10月定例会②

月 日：平成27年10月24(土)9:15～12:00

場 所：高松市ふれあい福祉センター勝賀

テーマ：「自ら社会参画を求め、社会科本来の魅力を創る教育～社会科の目標、資質、能力、内容の研究を深め、特に「授業評価演習」形式による高松市社研の研究体制の確立を図る」

提案者：真鍋 長嗣先生(高・十河小)

中村 祥子先生(高・鬼無小)

中山三千雄先生(高・木太北部小)

第3学年「わたしたちのまち みんなのまち 「ここがおすすめ！木太北部！」

司会者：黒川 浩一先生(高・香南小)

指導者：小柳 良二先生(高松市教育委員会学校教育課指導主事)

池田 孝徳先生(香社研OB・高松市総合教育センター指導員)

## ○ 11月定例会

月 日：平成27年11月7日(土)9:15～12:00

場 所：丸亀市綾歌町岡田コミュニティセンター

テーマ：「自立と共生を育む社会科学習」

提案者：秋山 侑大先生(丸・城坤小)

第6学年「武士の世の中へ」

司会者：和田 早苗先生(丸・郡家小)

指導者：山内 秀則先生(香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事)

指導者：松下 繁美先生(香社研OB)

# 【夏季研修会】

- ・ 月 日 平成27年7月28日（火）
- ・ 場 所 綾川町立昭和小学校
- ・ 内 容 提案発表，坂綾社研実践発表，各郡市社研実践発表
- ・ 提案者 本部提案：河田 祥司（香川大学教育学部附属高松小学校）  
坂綾社研：宮武 克明（綾川町立滝宮小学校）

## 分科会Ⅰ：坂綾社研実践

| 分科会  | 単元名             | 授業提案者                   | 指導・助言者                                 |
|------|-----------------|-------------------------|----------------------------------------|
| 第3学年 | 工場の仕事           | 坂出市立坂出小学校<br>教諭 岡本 敏英   | まんのう町教育委員会<br>学校教育課<br>主任指導主事<br>佐柳 仁  |
| 第4学年 | 火事からくらしを守る      | 綾川町立 昭和小学校<br>教諭 網野 未来  | 高松市立屋島西小学校<br><br>教頭<br>池田 茂樹          |
| 第5学年 | これからの食料生産とわたしたち | 宇多津町立宇多津小学校<br>教諭 河野 富男 | 観音寺市立柞田小学校<br><br>教頭<br>小西 寛           |
| 第6学年 | 世界に歩み出した日本      | 綾川町立陶小学校<br>教諭 青木 弥生    | 香川県教育委員会<br>東部教育事務所<br>主任指導主事<br>長田 在代 |

## 分科会Ⅱ：各郡市社研の実践提案発表

| 方策          | 郡市  | 学年・単元名                            | 提案者                    | 指導助言者                      |
|-------------|-----|-----------------------------------|------------------------|----------------------------|
| A<br>D      | 高松北 | 第6学年<br>武士の世の中へ                   | 高松市立牟礼小学校<br>教諭 黒川 幸宣  | 香川大学教育学部<br>教授<br>伊藤 裕康    |
| C           | 高松南 | 第3学年<br>三木町の様子                    | 三木町立平井小学校<br>教諭 小川 知樹  | 観音寺市立大野原小学校<br>教頭<br>深川 隆  |
| A<br>C      | 丸亀  | 第6学年<br>天皇中心の国づくり                 | 丸亀市立郡家小学校<br>教諭 増井 泰弘  | 二木町立氷上小学校<br>教頭<br>小笠原 学   |
| A<br>C      | 小豆  | 第3学年<br>わたしのまち みんなのまち<br>～学校のまわり～ | 小豆島町立安田小学校<br>教諭 林 宗利  | 丸亀市立城乾小学校<br>教頭<br>合田 吉宏   |
| A<br>C      | さ東  | 第5学年<br>わたしたちの国土<br>あたたかい土地のくらし   | さぬき市立石田小学校<br>教諭 山崎 悠  | まんのう町立仲南小学校<br>教頭<br>森井 信一 |
| A<br>B<br>D | 仲善  | 第5学年<br>米づくりのさかんな地域               | 琴平町立琴平小学校<br>教諭 竹森 仁志  | 高松市立前田小学校<br>教頭<br>岡本 英孝   |
| A<br>C      | 三観  | 第6学年<br>武士の世の中へ                   | 三豊市立上高瀬小学校<br>教諭 泉宮 広也 | 高松市立十河小学校<br>教頭<br>大嶋 和彦   |

- ・ 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官  
「社会科改訂への模索」 澤井 陽介 先生



## 【会場校研修会】

### ○6月 十河小学校(高松)事前

日時 平成27年6月6日(土) 9:30~11:30

場所 高松市立十河小学校

内容 6月16日(火)の授業の指導案をもとに事前の勉強会を行う

授業 第3学年 社会科 単元「高松市のよさから十河をみつめなおそう」

授業者 高松市立十河小学校 教諭 真鍋長嗣

### ■6月 授業公開(高松)

日時 平成27年6月16日(火) 14:00~16:25

場所 高松市立十河小学校

研修内容

授業公開 14:00~14:45

第3学年 社会科 単元「高松市のよさから十河を見つめなおそう」

授業者 高松市立十河小学校 教諭 真鍋長嗣

全体会 15:00~16:25

#### ○ 指導・講話

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介 先生

### ■6月 授業公開(観音寺)

日時 平成27年6月17日(水) 13:20~16:25

場所 観音寺市立観音寺小学校

研修内容

授業説明 13:20~13:35

公開授業 13:45~14:30

第6学年 社会科 単元「武士の世の中へ」

授業者 観音寺市立観音寺小学校 教諭 近藤 弘子

講演 16:50~16:20

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介 先生

### ○6月 観音寺小学校(三観)事後

日時 平成27年6月17日(水) 13:20~16:25

場所 観音寺市立観音寺小学校

内容 6月17日(水)の授業をもとに事後の勉強会を行う

提案 第6学年 社会科 単元「武士の世の中へ」

提案者 観音寺市立観音寺小学校 教諭 近藤 弘子

### ○10月 十河小学校(高松)事前

日時 平成27年10月10日(土) 9:30~11:30

場所 高松市立十河小学校 (北門より入り、運動場に駐車)

内容 10月22日(木)の授業の指導案をもとに事前の勉強会を行う

授業者 【授業公開Ⅰ】 第4学年 十河の香り活動（総合的な学習の時間）

単元「十河の地いき祭りをつくろう」 授業者 教諭 藤澤 大地

【授業公開Ⅱ】 第5学年 社会科

単元「わたしたちの国土と環境～温暖化から地球を守る～」 授業者 教諭 鶴羽 美緒

#### ■10月 授業公開(高松)

日時 平成27年10月22日（木） 13:20～16:25

場所 高松市立十河小学校

研修内容

【授業公開Ⅰ】 13:20～14:05

第4学年 十河の香り活動（総合的な学習の時間）

単元 「十河の地いき祭りをつくろう」

授業者 高松市立十河小学校 教諭 藤澤 大地

【授業公開Ⅱ】 14:10～14:55

第5学年 社会科

単元「わたしたちの国土と環境～温暖化から地球を守る～」

授業者 高松市立十河小学校 教諭 鶴羽 美緒

【全体会】 15:10～16:25

○ 授業説明（授業者）

○ 指導・講話

講師 帝京大学大学院・教職大学院 教授 中田 正弘 先生

#### ■2月 授業公開(観音寺)

日時 平成28年2月8日（月） 13:20～16:25

場所 観音寺市立観音寺小学校

研修内容

授業説明 13:20～13:35

公開授業 13:45～14:30

第5学年 社会科 単元「自然災害を防ぐ ～今こそ、南海トラフ地震への備えを！」

授業者 観音寺市立観音寺小学校 教諭 出演 大資

公開授業の御指導及び御講演 14:50～16:20

講師 國學院大學 人間開発学部 教授 安野 功 先生

#### ○2月 観音寺小学校(三観)事後

日時 平成28年2月13日(土) 9:30～11:30

場所 観音寺市立観音寺小学校

内容 2月8日(月)の公開授業及び安野功先生の講演をもとに事後の勉強会を行う。

提案 第5学年 社会科 単元「自然災害を防ぐ ～今こそ、南海トラフ地震への備えを！」

提案者 観音寺市立観音寺小学校 教諭 出演 大資

## 平成 27 年度 香社研フィールドワーク活動報告

平成 27 年度のフィールドワークも例年と同様に、旅行会社の既製のプランにないオリジナルツアーを企画しました。教科書に掲載されている事例地を中心にめぐる 1 泊 2 日のフィールドワークを通して、歴史、伝統、文化や、人々の温かい心にふれることができました。

### 1 目的

- ① 教科書に掲載されている地域を巡り、教材研究を深める。
- ② 教科、世代を問わず香社研や教員同士の親睦を深め、ネットワークを広げる。

### 2 行程

|             |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一<br>日<br>目 | 八月<br>八日<br>(土) | 津田 SA=高松駅=坂出駅=== J F E スチール (株) 西日本製鉄所 (倉敷地区) ==<br>6:40          7:20          8:00                  9:00                                  12:30<br>=真庭市バイオマスタウン体験===三朝温泉==懇親会<br>14:00                                  17:00          18:30                  21:00 |
| 二<br>日<br>目 | 八月<br>九日<br>(日) | 旅館==三徳山投入堂参拝 (三朝散策) ==境港にて昼食・散策===鬼ノ城==<br>8:00          8:30                                  10:30          12:00                  14:00                  16:30          17:30<br>=坂出駅==高松駅==津田 SA<br>19:00          19:40                  20:20                   |

### 3 交通手段

貸し切りバス

### 4 見学地紹介

#### ① J F E スチール (株) 西日本製鉄所

1200℃に加熱された約 10 t の真っ赤な鉄が巨大な圧延機で薄く延ばされていく様子などモノづくりの迫力ある施設を見学しました。

見学コースにもかかわらず、鉄が延ばされるたびに、伝わっていく熱気に驚くと共に、日本のものづくりの現場見学を通して、日本の技術力の素晴らしさを改めて実感しました。

質問の時間には、若年参加者からどんどん質疑が行われ、予定時間を過ぎても、まだ質問を続けようとする姿に、参観者の研究意欲の高さが見えました。



#### ②真庭市バイオマスタウン体験

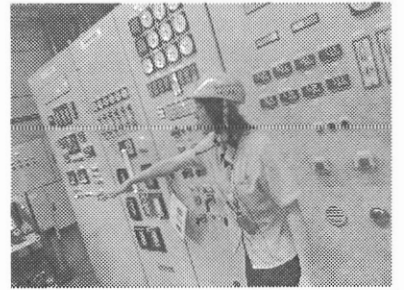
自然と共存し伝統を守りながら人々が生活する「バイオマスタウン真庭」の視察を行いました。真庭市がめざすバイオマスタウン、地域の暮らし、そして現在進行中の事業概要についての説明を受けてから、ペレットの国内生産ではトップシェアの銘建工業の実際の工場を担当者の方から解説していただきました。その後、バイオマス集積基地、発電所や市役所などを見学しました。





官民一体の街づくりの取り組みや、地域に対する誇り、地域の資源をどのように生かすべきか、考えるきっかけとなりました。日本の林業の未来の在り方を考えるきっかけとなりました。

その後、TVでも、取り上げられた真庭市から始まった、日本中の山を再び宝の山によみがえらせる取り組み。数年後に改めて行った時にどのような姿になっているのか楽しみです。



### ③三徳山投入堂参拝

三徳山三佛寺は天台宗修験道三徳山法流の寺であり、鳥取県のほぼ中央、中国山脈の脊梁部北側に位置し、周囲は高い山々に囲まれ変化に富んだ溪谷美を見せる場所です。三徳山は、山岳修験の場としての急峻な地形と神仏習合の特異の意匠・構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有しており、その人を寄せ付けない 厳かさは1000年にわたって畏怖の念を持って守られ続けています。参拝の前に心身を清める場所として三徳山参詣の『拠点を担当した三朝温泉』は、三徳山参詣の折に白狼により示されたとの伝説が残り、温泉発見から900年を経て、なお、三徳山信仰と深くつながっています。今日、三徳山参詣は、断崖絶壁での参拝により「六根（目、耳、鼻、舌、身、意）」を清め、湯治により「六感（観、聴、香、味、触、心）」を癒すという、ユニークな世界を具現化し、日本遺産にも登録された場所です。想像以上の断崖絶壁の登山道に驚きを隠せませんでした。登り切った時の達成感。投入堂からの景色は最高でした。また、下山後の温泉も前日とは違う感覚で堪能できました。



### ④境港

境港は、鳥取県西部の日本海に突き出した弓ヶ浜半島の北端にあります。ゲゲゲの鬼太郎で有名な作者の水木しげるさんが出身で「水木しげるロード」もあり観光客を楽しませてくれていました。わずかな時間でしたが、獲れたて新鮮の魚介類を堪能したり、ショッピングをしたりして楽しみました。

### ⑤鬼ノ城

フィールドワークといえば、100名城です。今年は、古代山城鬼ノ城に行きました。圧倒的なスケール感。なぜ、このような場所に建てたのか。謎の多い城です。古代山城ということで、屋嶋城にも通じるものを感じました。



## 5 フィールドワークを振り返って

今年度も多くの人々の参加によって、充実したフィールドワークを実施することができました。例年と異なる日程でしたが、参加した方には満足してもらえたのではないかと考えています。次年度も充実したもののできるよう準備していきたいと思ひます。

# 平成 27 年度 社会科の基礎・テスト 編集委員会

## 1 本年度の実施報告

### (1) 本年度の重点事項

○子どもにとって「力が伸びる」 基礎・テスト

基礎的な知識・理解，技能の習得と，それらを活用して解決する問題の作成。

○教職員にとって「本当に使える」基礎・テスト

2社の教科書に対応した指導要領準拠の問題作成。

分かりやすい解答表記，使いやすい教科書対応ページ表記などの工夫

### (2) 年間計画等

今年度，年5回（前期版・後期版）の編集会議。

| 年    | 平成27年 |          |   |   |          |   |    |    |    |   |   |   | 平成28年 |  |  |
|------|-------|----------|---|---|----------|---|----|----|----|---|---|---|-------|--|--|
| 月    | 4     | 5        | 6 | 7 | 8        | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |       |  |  |
| 作成予定 | ①     |          | ② | ③ |          |   |    |    |    |   |   |   |       |  |  |
|      |       | H28前期版作成 |   |   |          |   |    |    |    |   |   |   |       |  |  |
|      |       |          |   | ① |          | ② | ③  |    |    |   |   |   |       |  |  |
|      |       |          |   |   | H28後期版作成 |   |    |    |    |   |   |   |       |  |  |

### 【年間計画】

|           | 回  | 日 時                                     | 内 容                       | 備 考                          |
|-----------|----|-----------------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 二十八年度前期作成 | ①  | 4 / 29 (水) 9:00～11:30                   | 担当決め                      |                              |
|           | ②  | 6 / 13 (土) 9:30～11:30                   | 協議・作成                     |                              |
|           | ③  | 7 / 18 (土) 13:30～15:30                  | 最終の話合い                    | ■ 会終了後，28年度後期版担当決めを行う。       |
|           | 提出 | 7 / 28 (火)<br>7 / 31 (金)<br>8 / 7 (金)   | 世話役必着<br>指導者必着<br>事務局黒田必着 |                              |
| 二十八年度後期作成 | ①  | 7 / 18 (土) 15:30～16:30                  | 担当決め                      |                              |
|           | ②  | 9 / 26 (土) 13:30～15:30                  | 協議・作成                     |                              |
|           | ③  | 10 / 24 (土) 13:30～15:30                 | 最終の話し合い                   | ■ 交通費，執筆費受領(5回分)<br>(受領印を持参) |
|           | 提出 | 11 / 9 (月)<br>11 / 24 (火)<br>12 / 7 (月) | 世話役必着<br>指導者必着<br>事務局黒田必着 |                              |

編集作業では，次のように役割分担し，下記の計画にそって行いました。

### 【役割分担】

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| ■ 指導，編集責任者            | ・・・ 教頭先生   |
| ■ 世話役（司会，原稿取りまとめ，添削等） | ・・・ 1名     |
| ■ 編集者                 | ・・・ 残りの先生方 |
| ■ 編集補助【事務，研究】         | ・・・ 事務局5名  |

# 研究主題

## 自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育

香川大学教育学部附属高松小学校 河田 祥司

### I 研究主題について

#### 1 研究主題設定の背景

日本において、人口減少、少子高齢化、グローバル化などが加速的に進行している。この中で、学校はどう変わらなければならないのか。大きく2つのことを挙げたい。

1つは、「論点整理に関する検討会」「21世紀型スキル」「道徳の特別教科化」「新学習指導要領中教審諮問」などから分かる、資質・能力の育成による実社会・実生活に生きる教育の在り方である。文部科学省の「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」から、次期学習指導要領の基礎資料として論点整理が出された。（以下、「論点整理」とする）それをもとにして各研究者から、様々な論が提議される中、児童生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるかが大きな課題となっている。香社研では、社会科の目標である「公民的資質の基礎を養う」ことにつないで、よりよい社会の形成に参画（社会参画）する資質や能力を育てていきたい。

もう1つは、学校づくりである。2014年7月25日、内閣官房に「まち・ひと・しごと創生本部」設立準備室が発足したこと。民間の日本創生会議（座長・増田寛也元総務相）が地方自治体の半数を「消滅可能性都市」として衝撃を与えた”消滅自治体リスト”にも見られるよう、地方の未来や存在意義が見直されていることなどからも分かるように、地域の中の学校、地域創生・地方創生の核としての「学校づくり」が問われている。地域の拠点としての学校は、教育内容を教える教育機関から地域の核として、地域、県や市の行政、各種団体と連携した「協働」する新たな取り組みが求められている。

香社研では、地域の核となる学校や求められる資質・能力を社会科を通してどのように実現していけばよいか考えていきたい。これまでの研究を踏まえ、研究主題を「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育」と設定した。「資質・能力」を育成するために社会科のもつ魅力を重視して教育を創っていくことをテーマとして置き、研究を進めたい。

#### 2 研究主題のもつ意味

##### (1)「自ら社会に参画する資質・能力を高める」ことについて

###### ①「資質」「能力」の概念整理

「資質」とは、「能力や態度、性質などを総称するものであり、教育は、先天的な資質を更に向上させることと、一定の資質を後天的に身に付けさせるという両方の観点をもつものである」とされており、「資質」は、「能力」を含む広い概念として捉えられている。「論点整理」では、「資質」と「能力」の相違に留意しつつも、「資質・能力」として、一体的に捉えている。

###### ② 社会科が目指す資質・能力

小学校社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とあり、どのような人間を育てようとしているのかということが、はっきり打ち出されている。  
社会に参画する資質・能力は、公民的資質の中核をなすものであり、社会科の授業を通して高めていくことが重要である。また、それを高めていくためには、「論点整理」でも述べられているように「主体性・自立性にかかわる力」「対人関係能力」「課題解決力」「学びに向かう力」「情報活用能

力」「グローバル化に対応する力」「持続可能な社会づくりに関わる実践力」等の力を付けていくことが求められるだろう。

### ③ 資質・能力と内容の関係性について

国立教育政策研究所から出された教育課程の編成に関する基礎的研究報告書7「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」の第5章では、「資質・能力が教科等の内容に関する質の高い知識やスキルを含みつつ、それをいかに使うかというメタ認知や社会的なスキル、態度まで融合したものとして構想されている可能性を確認した。」とあり、また、「資質・能力が目標として育成可能であるとともに、教科等の内容理解に資質・能力が手段として活用できる可能性も示唆された。」とある。

資質・能力の育成を目指す中で各教科で扱ってきた内容との関係性の整理については、今後の検討を待たなければならない。いずれにしても、その校の学校の教育目標でどんな資質・能力を育成するのかという「学校づくり」が基盤にあって、そのもとでの各教科等の目標・内容という筋道に立つことが大切である。授業の中で内容を扱いながら資質・能力を育てていくといったこれまで香社研が取り組んできたこととつなぎ、社会科として育成すべき資質・能力を次のようにまとめた。

## 学校の教育目標(資質・能力) ～地域を核としての学校づくり～

### 社会科として育成すべき資質・能力

【育成すべき資質・能力】 公民的資質(社会に参画する資質・能力がその中核をなす)

「主体性・自立性にかかわる力」「対人関係能力」「課題解決力」「学びに向かう力」  
「情報活用能力」「グローバル化に対応する力」「持続可能な社会づくりに関わる実践力」

#### 【授業づくり】

#### 社会認識の形成

教科等を横断する汎用的なスキル  
(認知スキル・社会スキル)

教科等の本質に関わるもの  
(社会科ならではの見方・考え方)

社会科固有の知識や個別スキル

#### 【授業づくりを行う上での基本的考え】

- 1 子どもは有意味な文脈で学ぶ
- 2 子どもは自分の考えを持っている
- 3 子どもは対話で考えを深められる
- 4 考えるためには材料がいる
- 5 すべ(方略)は、必要に応じて使うことができる
- 6 学び方は繰り返し振り返って自覚できる
- 7 教室や学校に学び合いの文化があると、より学びやすくなる



## (2)「社会科の魅力を創る教育」について

今、全国的に社会科の大きな課題になっていることは、社会科学習が「知識」の重視に偏り、学ぶ喜びを感じにくくなってきていること、また、真の「理解」が伴っていないため、学ぶ価値が実感できにくくなってきていることなどが挙げられる。

一部の社会科を専門とする教員による授業では、教科書教材を基本にしながらも地域教材の活用を図り、内容を再構成して、子どもが主体的に学ぶ工夫を取り入れながら授業づくりを行っているのに対して、社会を専門としない教師が行う授業の中には、「教科書を読み内容をノートに書く学習」

「教科書と教科書指導書により解説しながら板書する学習」「教科書と『社会科の基礎』（ワーク）による学習」など画一的で受け身的な学習が行われている場合も多く見られる。

このような現状から考えると、社会科の授業を子どもたちの主体的な学習、意欲を高めていく学習、そして探究することに喜びをもつ学習等にする必要がある。このような授業づくりを目指すことにより、現在課題となっているいじめや学習意欲の低下等の解決の糸口にもなっていくのではないかと。

「社会科の魅力」については、社会科発足当初の初期社会科の目標である、「社会の様々な問題について、自主的自律的に思考判断する能力を育てる」ことにより、その経緯をたどり社会科を見つめ直すことで、本来あるべき社会科授業の在り方が見えてくる。

香社研では、次に挙げる3つの視点を社会科の魅力として捉え、研究を深めていきたい。

**視点1** 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

**視点2** 社会参画を意識した指導計画の作成

**視点3** 子どもが問題（課題）意識をもち、主体的に問題（課題）を解決する学習の在り方

**視点1**については、社会科学習を通してどのような子どもを育てたいのか、目指す子ども像を各学校で明確にしておくことが必要である。このことが他の教科とちがう大きな魅力となっている。社会科が戦後一貫して求めてきたのは、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」である。このことを念頭に置き、各校なり子ども像を描くことが大切である。また、そのような子どもを育てるためには、1つ1つの単元を通してどのような社会認識をつかませたいのかを明確にしておく必要がある。それにより、教材の扱いや単元の組み立て方も大きく異なってくる。

**視点2**については、教師自らが指導計画を作成していくことが求められている。それは、1つの単元だけではなく、多くの教師の協同によって全ての単元において、よりよい社会の形成への参画を意識した指導計画をつくっていくことが重要である。かつての教師集団においては、「〇〇プラン」として競って自分たちの理想とする指導計画の作成が行われていた。そこに社会科教師としての魅力を感じていたのである。今一度、現場教師がチームを組んで指導計画を作成する教師力をもてるようにしたい。

**視点3**については、冒頭でも述べたように、単元や1時間の授業の中で、いかに子どもたちが意欲をもち、主体的に取り組んでいけるような学習にしていけるかということである。主体的に学んでいくことは、教師の一方的な教授とは異なり、自らが思考して知識や概念を獲得していくことに他ならない。教科の本質も大切にしつつ、教科を横断するような汎用的スキル(認知スキルや社会スキル)も念頭に置き、研究を深めていきたい。

香社研では、このような3視点を通して、これまでの社会科学研究を振り返り、香社研の伝統と研究の積み上げの上に、社会科の魅力を充実させることにより、自ら社会に参画する資質・能力を高めていき、全国大会においてその成果を発信していきたい。

## Ⅱ 研究主題探究の方策

### 1 「自ら社会に参画する資質・能力を高めること」についての方策

#### (1) 「社会参画」の意義

平成18年に、59年ぶりに教育基本法が改正され、教育の目標に「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が新たに盛り込まれた。それを受けて、平成19年の学校教育法の改正により、義務教育の目標にも同様なことが規定された。

「社会参画」という言葉が一人歩きをしている感があるが、その前提としての「公共の精神」がまず大切にされなければならない。「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神、まさに国や社会の問題を自分自身の問題として考え、社会の他の人々と一緒に協働しながら社会を形成していく精神のことを指す。社会参画という前に公共の精神や公正な判断力、あるいは社会に向ける関心などを教育活動全体で育むことが大切である。社会参画はその先にあるものである。

これまでの日本人は、ややもすると国や国家はだれかがつくってくれるものという意識が強かったのではないだろうか。これからは、国や社会の問題を自分自身の問題として考え、そのために積極的に行動していくことが大切である。自分から積極的に社会の形成にかかわり、よりよい社会をつくっていくんだという自覚をもつこと、それがいわゆる社会参画である。

#### (2) 「自ら社会に参画する資質・能力を高める」ことについて

自ら社会に参画する資質・能力を高めるためには、授業において次のことを考えながら授業を行うことが大切になってくる。

##### ① 社会的事象の確かな理解

よりよい社会を目指して取り組む人々を「参画するモデル」として取り上げる。実社会に生きる人々がどんな目的で、どんな願いをもって、どんな働きをしたのかなど、社会的事象の意味を理解することが大切である。

##### ② 汎用的スキルの育成

社会は、様々な働きが相互に関係し合って、課題を解決してきている。そのため、「多面的に考える」「人ごとではなく将来にわたって自分の関わり方を考える」「バランス感覚をもって判断する」「意見交換ができる」といった能力を育む必要がある。

##### ③ 社会的な見方や考え方から自分の在り方を考える

社会的事象の意味をとらえる見方、考え方を養うことによって、自分の社会に対する働きかけを見つめ直し、自分の在り方について考えることができる。協働への糸口を見つけ、かかわろうとすることが大切である。

小学校における授業では、「あなたにできることは」と拙速に答えを求めるのではなく、その前提としての社会的事象の確かな理解や社会に出たときに必要とされる社会的なスキルの育成が重要になってくる。また、社会的事象の確かな理解を通して見方・考え方をしっかりつかみ、そこから価値判断・意思決定し、自分たちのできることの効果や実現性を吟味し合う学習が、参画への意欲や態度の形成につながっていくのである。

#### (3) 「自ら社会へ参画する資質・能力を高める」授業づくりについて

「社会参画による資質・能力の育成」につなぐ学習は、平成26年度までの実践では、まとめの段階で表現したものをもとに、「発信」という方策が多く見られた。このことについて、平成26年度「東京大会」の成果を大切に生かし、研究を深めることが必要である。教科調査官の澤井陽介氏が、「社会科教育26年8月号（明治図書）」で述べていることをまとめると次のようになる。

### 東京大会の事例

- ～できることを考える。
- ～の在り方を考える。
- ～関わっていくかを考える。
- 自分ができることを考える
- 会議を開き、提案する。

など

### 東京大会主張のまとめ

- ① 社会的事象の意味を人々の「思い」「願い」「努力」などに関連付けて認識すること。
- ② 社会的事象の意義、よさや課題、問題点を認識すること。
- ③ 社会的事象を「変化」「継承」「発展」などと時間的経過で認識すること。
- ④ 「役割」「自分たちとのかかわり」「～にとっての意味」などと、大きな枠組みから捉え直して、社会的な意味を認識すること。

### 課題とすること

社会的事象の意味を、どのように具体的に理解して社会認識を深めれば、子どもは未来を社会を、日本を、そして自分との関わりを考えるようになるのか。

小学校で何をどこまで求めるのか。今後を考えていく必要がある。

そこで、今年度は以上のような考えや実践を踏まえ、「発信」による「社会参画につなぐ活動」を「発信・返信の探究活動」「社会参加・社会参画」などとし、具体的な実践を通して、公民的資質の基礎づくりを目指していきたい。

社会的な在り方を社会科学習で学び、それを現実社会につなぐことが、社会への参画への意識の高まりとともに求められている。社会科学習では、これまで述べてきたように社会への参画の活動そのものを含むものではないが、参画への意欲を高めるために現実の社会とつなぐことは重要なことである。ここでは、社会参画につながる授業づくりの一例を示しておく。

- 地域の抱える問題の解決方法を話し合う。
- 地域のよりよい発展のための方策について話し合う。
- 学んだことをもとによりよい社会づくりに向けて自分たちでできることを話し合う。
- すばらしい業績を残した人を参画モデルに自分たちの在り方を考える。
- 過去の人や集団、組織の問題解決や知恵に学ぶ。
- 他者の立場に立ったり、立場を変えたりして物事を関係的に捉える。
- 国家の一員として、国際社会における日本の在り方を考える。 等

これ以外にも単元によって様々な活動を工夫することが考えられる。大切なことは、小学校社会科の授業を通して子どもたちに参画への意欲を高めることである。

こうした積み重ねが、将来、公民的資質の基礎を培うことにつながり、「望ましい社会を創造する能力」となってくると考えられる。

## 2 「社会科の魅力を創る」ことについての方策

社会科の魅力のうち、香社研では次に挙げる3つの視点を大切にしたいと考えているが、次期学習指導要領の改訂作業に伴い、「再構成の学習論」に資質・能力の育成を考慮し、改善を加えることになる。

視点1 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

視点2 社会参画を意識した指導計画の作成

視点3 子どもが問題（課題）意識をもち、主体的に問題（課題）を解決する学習の在り方

ここでは、視点ごとに、これまでの香社研の研究とつないで現時点における研究の方向性について説明を行いたい。

## (1) 社会科の魅力〈視点1について〉

視点1 目指す子ども像とつかませたい社会認識の明確化

### ① 「社会認識」の考え方

社会認識をつかむということは「社会現象」について事象間のつながりを発見し、論理を自分なりに構成していくこと。社会の具体的な現象を自ら分析し、その過程を通して社会についての認識を確かなものにしていくことである。この認識は単に事実の把握・理解ということではなく、目指す子ども像に結びつくものである。社会に参画する資質・能力を高めるためには、この単元ではどのような認識をつかませたいのか、教師が明確な意図をもつことが必要になってくる。

また、この認識は、教師による単なる教え込みによってはつかむことはできない。子どもたち自らが主体的に学ぶ中でこそ身に付くものである。それは、「AのはずがB?」「AとBどっち?」というように、子ども自身が矛盾や対立を意識化することから始まる。この矛盾や対立の意識を出発点として子どもの力による問題解決的な学習を通して、理解が深まっていく。それは知識の単なる集積ではなく、新しい問題や事態を切り開いていく汎用的なスキルを育てることでもある。教師は、「何を知っているか」から「何ができるようになったか」を求めていく必要がある。

### ② 2つの「社会認識」

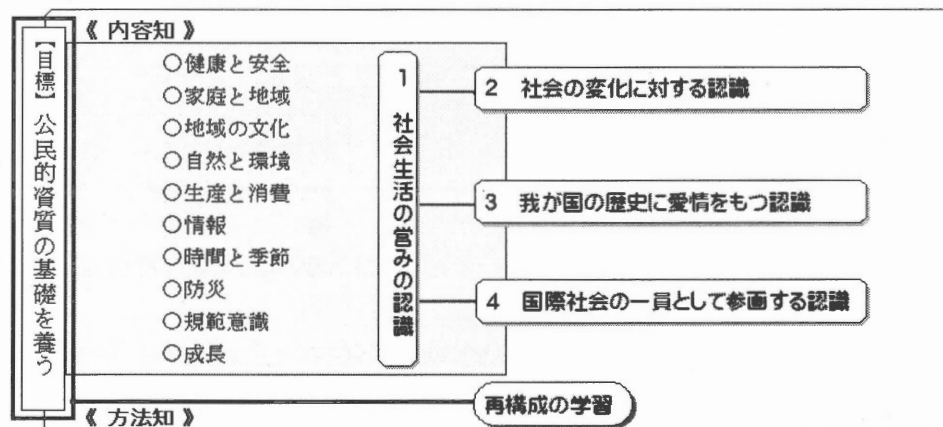
社会認識は、内容知と方法知に分けることができる。内容知は、科学知（社会諸科学、自然諸科学、人文諸科学）と人間知から成り立っている。このように、社会認識を社会諸科学だけでなく、他の諸科学にも拓いていく認識が一つめである。

もう一つは、よりよい社会の形成に参画（社会参画）する資質・能力に「つなぐ」認識である。前者の認識を基盤としたり手がかりにしたりして、拓いていくのである。

社会科の目標である公民的資質の基礎を養うために、2つの社会認識をどのようにひらいていくのか、「社会認識カリキュラム」と「社会参画につなぐカリキュラム」の2つから迫っていきたい。

### ③ 社会科の目標にせまる社会認識の全体像

一口に社会認識といってもその捉え方は人によって様々であり、そのままでは授業づくりに生かしていくことが難しい。そこには、いくつかの切り口（視点）が必要である。香社研では、公民的資質を育てるという観点から、次の4つの視点を置き、単元ごとの細かな内容を置くこととした。教材研究の段階からどの視点・どの内容から迫っていくかを明確に意識し、授業づくりを行っていくことが大切になる。





生活科・社会科の目標と社会認識の関連

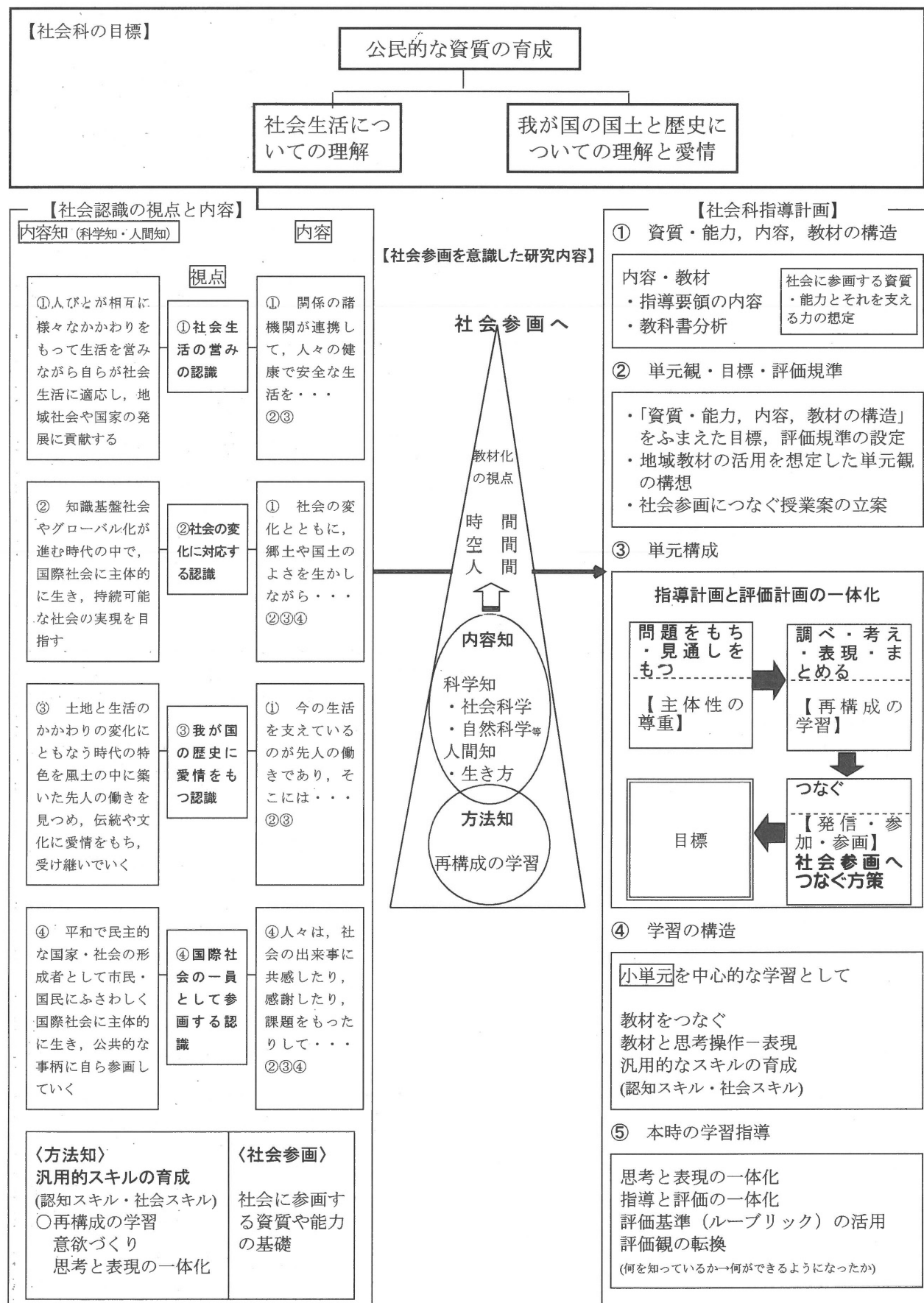
| 生活科の目標                                                                                                        | 社会科の目標              | 社会認識                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自立への基礎を培う                                                                                                     | 公民的資質の育成            | 〈内容知（科学知・人間知）〉                                                                                                                           |
| (1)<br>・自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもつ<br>・地域のよさに気づき、愛着をもつ<br>・集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができる | 社会生活についての理解         | ① 人びとが相互に様々なかかわりをもって生活を営みながら自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献する。<br><br><b>視点1</b><br>社会生活の営みの認識<br>◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらし（生活）を営み、願いをかなえる努力をすること |
|                                                                                                               | 我が国の国土と歴史についての理解と愛情 | ② 知識基盤社会やグローバル化が進む時代の中で、国際社会に主体的に生き、持続可能な社会の実現を目指す<br><br><b>視点2</b><br>社会の変化に対応する認識<br>◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつ                    |
| (3)<br>・身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深める<br>・自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活する                                                | 公民的な内容              | ③ 土地と生活のかかわりの変化にともなう時代の特色を風土の中に築いた先人の働きを見つめ、伝統や文化に愛情をもち、受け継いでいく<br><br><b>視点3</b><br>我が国の歴史に愛情をもつ認識<br>◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求める         |
|                                                                                                               |                     | ④ 平和で民主的な国家・社会の形成者として市民・国民にふさわしく国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく<br><br><b>視点4</b><br>国際社会の一員として参画する認識<br>◎ 国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考える    |
| 〈方法知〉                                                                                                         |                     |                                                                                                                                          |
| 再構成の学習を「意欲」「思考操作」「評価」から組織し、主体的に学ぶ力を育成する。                                                                      |                     | 再構成の学習を組織し、主体的な学習を進める中で、「思考と表現」「指導と評価」の統一を図り、言語活動の充実を目指す                                                                                 |

社会認識の視点と内容（試案）

| 視 点                                                                                           | 事項(指導要領の内容から)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 視点の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>視点1</b><br><div>社会生活の営みの認識</div> <p>◎ 私たちは、人や物との関わりの中で、くらしを営み、願いをかなえる努力をすること</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>人々の健康で安全な生活を守るために、関係の諸機関が連携して政治が行われている</li> <li>地域では、人々にとって健康で安全な環境がある</li> <li>地域の人々の生活が、変化・発展していくため先人の働きがある</li> <li>地域社会に対する誇りと愛情をもつ</li> </ul>                                                                                                                                                            | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 関係の諸機関が連携して、人々の健康で安全な生活を支えている</li> <li>② 人々の生活が変化し発展する中で、人々の協力や先人の働きがある</li> <li>③ 私たちは地域とかかわり、誇りと愛情をもつことが大切である</li> </ol>                                                                                                                                         |
| <b>視点2</b><br><div>社会の変化に対応する認識</div> <p>◎ 社会の変化に目を向け、広い視野に立って自分の考えをもつこと</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりの生活は、地域・国土と環境とが互いに絡み合っている</li> <li>自分たちの生活は、他地域や外国とかかわりをもちながら営まれており、人と物の流れを通して見ることが大切である</li> <li>地域社会の社会的事象の特色や相互の関連について考える</li> <li>我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について考える</li> <li>我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連、情報化の進展の意味について考える</li> <li>環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情をもつ</li> <li>持続可能な社会の実現を目指す</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 社会の変化とともに、郷土や国土のよさを生かしながら、人々は生産や消費などで多くの課題に立ち向かって努力している</li> <li>② 人々はよりよい社会を築くよう、環境・情報・福祉・防災などの課題に協力・連携して取り組んでいる</li> <li>③ 持続可能な社会を目指す取り組みを進めることが大切である</li> <li>④ 社会事象は相互に関連しており、日常の動きに目を向け、その事象のもつ意味を考えていくことが大切である</li> </ol>                                   |
| <b>視点3</b><br><div>我が国の歴史に愛情をもつ認識</div> <p>◎ 先人の働きに人間としての生き方や在り方を求めること</p>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々の生活の変化や地域の発展は、先人の働きによるものであり、人々の願いでもある</li> <li>国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産の理解を深める</li> <li>我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心をもつ</li> </ul>                                                                                                                                                                         | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 今の生活にもつながる先人の働きがあり、そこには先人の知恵や願いがある。</li> <li>② 郷土や国の発展に尽くした先人の業績や文化遺産を大切に、受け継ぐことが大切である。</li> <li>③ 我が国の時代の特色をもとに歴史や伝統・文化に誇りをもつことが大切である。</li> </ol>                                                                                                                 |
| <b>視点4</b><br><div>地域社会、国際社会の一員として参画する認識</div> <p>◎ 地域社会、国際社会の一員としての自覚をもち、社会事象のもつ意味を考えること</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りや地域の具体的な事例を調べ、感動したり、共感したりして、日本人としての自覚をもつ</li> <li>地域社会の一員として社会事象の意味をより広い視野から考え政治の働きに関心をもつ</li> <li>平和を願う日本人として世界の国々の人と共に生き、互いの文化を尊重し、国際社会における我が国の役割を自覚する</li> <li>公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力をもつ</li> </ul>                                                                                                      | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人々は、社会の出来事に共感したり、感謝したり、課題をもったりして社会を発展させようと努力している</li> <li>② 地域社会の一員として、より広い視野から考え、政治に参画することが大切である。</li> <li>③ 国際社会における我が国の役割の現状から地域社会の一員としての自覚をもたなければならない。</li> <li>④ 平和を願う日本人として、世界の人々と共に生きることは大切である。</li> <li>⑤ 公共的な事象に、自ら参画し、よりよい社会を形成しようとするのが大切である。</li> </ol> |

## (2) 社会科の魅力(視点2について)

### 視点2 社会参画を意識した指導計画の作成



## ① 社会科指導計画づくり

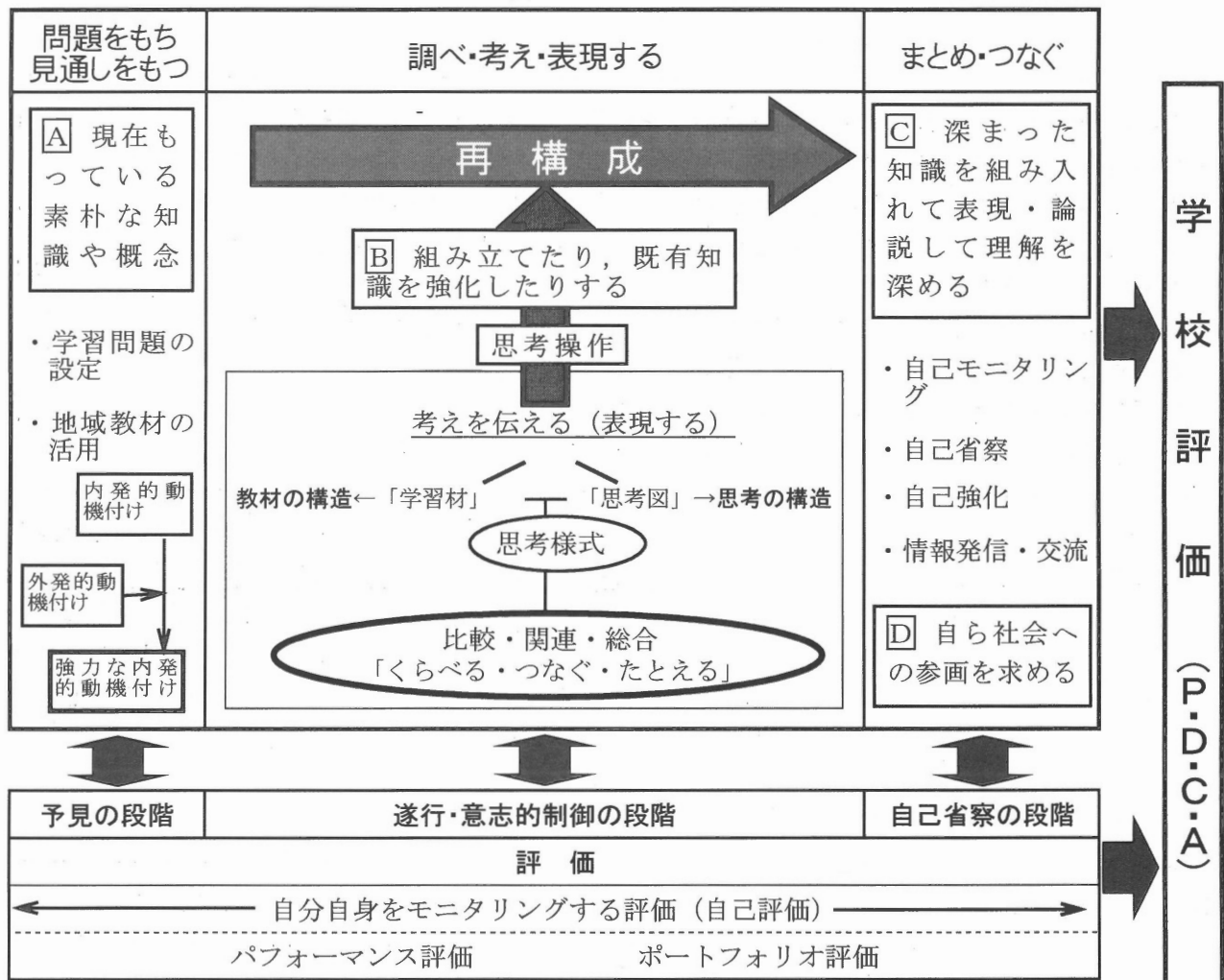
社会科指導計画を「内容・教材の構造」「単元観・目標・指導計画」「単元構成」「学習の構造」「本時の学習指導」の5つの内容で構成することにした。前ページの図を見ていただくと分かるように、社会認識の視点と内容を踏まえ、社会参画を意識した計画としている。

まず、「内容・教材の構造」では、教科書分析と地域教材の開発を行い、その教材が、どのような知識の構造になるのかを図に位置付ける。基底となる事項、関連する事項、発展的な事項に分類・整理を行い、どのような単元づくりが可能か検討する材料とする。この段階で、社会に参画する資質・能力、さらにはそれを支えるどのような力を育てていけばよいのか明確にしておくことが大切になる。「単元観・目標・指導計画」においては、先に述べた社会認識の視点(本部提案p8)を念頭に置きながら、単元観や本単元おける目標を明確化していく。「単元構成」においては、社会への参画を意識した授業の組み立てを考えていく。しかし、教師の意図性だけで単元化を図るのではなく、子どもの主体性を生かしながら単元づくりを行っていくことが重要になってくる。「学習の構造」においては、子どもの思考場面を想定し、どのような学習材を活用して子どもに思考させていくのかを考えていく。思考を通して概念を獲得する場を教師が想定し、支援を考える場としている。認知スキルや社会スキルの両面から汎用的なスキルが身に付くよう考えることが重要である。最後に「本時の学習指導」を計画していくのである。本時の学習指導については、視点3のところで詳しく述べたい。

香社研では、今まで述べてきた社会科の魅力に立って、『再構成の学習』により自ら社会へ参画する資質・能力を高める教育を創るカリキュラム(指導計画)を求めていきたい。

## ② 「再構成の学習」論について

### 「再構成の学習」の過程





次に、単元の大きな流れについてみていきたい。学習は、3つの段階をサイクル活動として展開する。3つの段階とは、「予見」「遂行・意思的制御」「自己省察」の段階である。大まかに言えば、「予見」は学習場面を設定し、見通しをもって取り組む計画を立てる段階、「遂行・意思的制御」は思考と表現の統一により再構成を図ることによって思考力を育てる段階、「自己省察」は、社会への参画につないだり、総括的な評価を入れた自己評価をしたりする段階と言える。この3つのサイクルが自己調整の過程であり、このサイクルを通して主体的に社会へ参画する意識を育てていく。

資質・能力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。その過程の活動が、思考様式の活動であり、自分自身を自己評価しながらメタ認知していく活動になる。このような力は教科を越える汎用的なスキルとなり得るものであり、大切にしていける必要がある。

**D**「自ら社会への参画を求めること」とは、社会的な見方・考え方・在り方の学びを現実の社会につなぎ、一人一人が、社会の一員としての自覚をもち、参画につながるような意識をもったり、単元によっては、自らの活動や態度で示したりしていく姿を求めているものである。

### ③ 社会参画を意識する手がかり

社会的な在り方を社会科学学習で学び、それを「社会参画」につなぐことが、社会参画への意識の高まりとともに求められている。子どもにとっても実社会・実生活の社会的事象の意味がわかったり、自分と社会がつながったりすることで社会科の魅力を存分に感じる。社会科学学習では、これまで述べてきたように社会参画の活動そのものを含むものではないが、社会参画へのきっかけとなるよう「社会参画」を意識すること（つなぐこと）は重要なことである。ここでは、「社会参画」へつなぐ手がかりを、これまでの香社研の実践から考えていく。

- ごみ問題を解決するために、自分たちができることを考え、取り組もう【直接参画型】
- 特色あるまちづくりをするために、どのような取り組みがよいか【創造型】
- 沖縄の事例のように、自然条件を生かした生活が地域にはあるか【地域着地型】
- 地域の祭りを継承（復活）するために、自分たちにできることは何か【創造型】
- 環境税の導入に賛成か反対か【価値判断型】
- 情報ネットワークを使って、過疎化をどう防ぐことができるか【創造型】
- 裁判員として、どのような判決（量刑）をくだすか。【価値判断型】
- 歴史を学ぶことは、自分たちにどのような意味があるのか【着地型】
- 〇〇さんの取り組みや考えから、自分や社会の在り方を考えよう【後ろ姿模倣型】

上記は、いずれも社会的事象（社会的な課題）を、自分ごととしてものものであり、社会参画を意識していく取り組みである。大切なのは、単元を通して追究しながら、上記の課題を考えるもとをもたせておくことである。その考えるもとがない状態で迫ることは、誤った社会への参画の仕方を意識させることにつながる危険がある。また、考えるもとがない状態で出会わせ、考えるもとを習得していき、再度考える場を設けるという実践もある。いずれにしても、指導計画づくりの5つの過程を通しながら、しっかりと考えていきたいものである。

### (3) 社会科の魅力〈視点3について〉

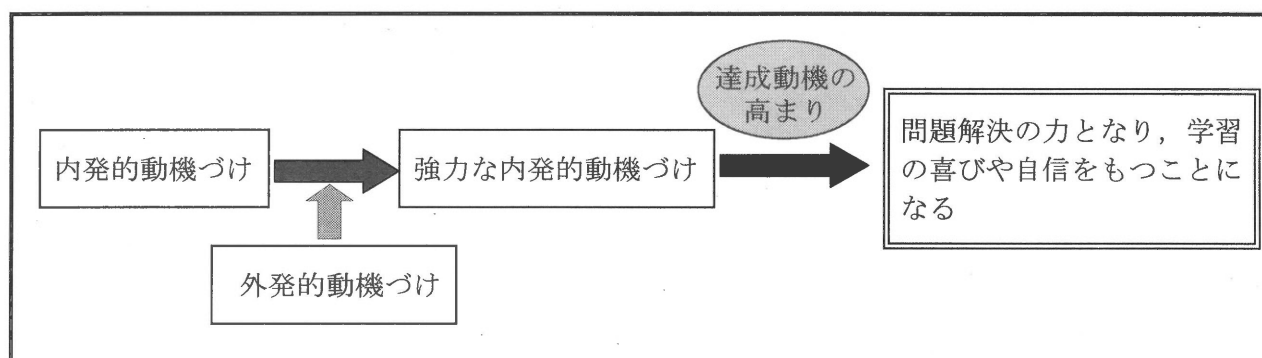
**視点3** 子どもが問題（課題）意識をもち、主体的に問題（課題）を解決する学習の在り方

子どもが問題（課題）意識をもち、主体的に問題（課題）を解決する喜びをもつことは、授業づく

りの上でとても重要なことである。「育成すべき資質・能力 一論点整理」の中においても「主体性・自律性にかかわる力」「課題解決力」「学びに向かう力」として大切にされているところであり、社会参画にもつながる力である。このことを達成するために、次の3つの点を大切にしたい。

#### ① 子どもが問題（課題）意識をもつための方策

意欲的に取り組むことは、問題（課題）意識をもつこと、問題（課題）を解決する喜びと自信をもつことなど、学習過程全体に機能する。この主体的な意欲をもつ大きな力は、「内発的動機づけ」と「外発的動機づけ」によるもので、この2つの動機づけの関係は、次の図に示すとおりである。



問題解決に立ち向かうため、自分のもっている経験や知識をもとにした「内発的動機づけ」を外発的な情報や新たな体験による「外発的動機づけ」によって、一層強力にしていくことが、主体的に意欲をもって取り組む源になる。このことを、もう少し詳しく述べておく。

子どもは、対象に思いや願いをもつことができれば、自ずと意欲が高まり、自ら進んで活動したり、活動そのものに喜びを感じたりして、主体的にねばり強く活動する。それは、何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求、達成動機があるからである。「動機づけ」とは、何らかの行動を引き起こし、ある方向に向け、それを持続させる過程と定義されている。また、「達成動機とは、活動の結果、成功や失敗として表れるような場面において、できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で、いわゆる「やる気」である。そして、達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め、自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方、達成動機の低い子どもは、失敗を避けようとする気持ちが高く、確実に成功する課題か、ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶと言われている。つまり、授業づくりにおいては、この達成動機を大切にしたい。

単元や授業づくりに置き換えると、「～を明らかにしたい」「～を達成したい」というゴール像が描け、単元の見通しをもてるようにすることと言い換えることができる。

#### ② 問題（課題）意識を継続させるための方策

単元を通して問題（課題）意識を継続させるために、学習過程を「問題をもち・見通しをもつ」「調べ・考え・表現する」「まとめ・つなげる」といった段階に分けて考える。

##### ▼「問題をもち、見通しをもつ」段階のポイント

学習に対する意欲は、問いをもつ段階においても、子ども自らが生み出すことが大切である。この段階では、社会事象に対して多様な興味や関心を示したり、問題追究への意欲を育てたりすることが中心となる。

そこで、どのような場合に、子どもが知的好奇心を示すのかをよく吟味しなければならない。知的好奇心を生み出す背景には、豊かな体験やそれまでの学習経験や外部資料が存在する。そのため、体験の場を設定したり自分の生活を掘り起こしたり、他の情報によったりして、目の前の社会事象と体験や既習経験とをつないで、その中に矛盾や共通点を見いだせるように状況を作ることが必要である。

##### ▼「調べ・考え・表現する」段階におけるポイント

最初にもった問いを、いかにして深め、追究していけるかがこの段階の課題である。問いが明らかになると子どもは意欲を示さなくなる。そのため、教師は問いをよく吟味し、深まりのある価値ある問いになるように導くとともに、表現活動を中心に据えながら、学び方を援助したり、相互交流の場を工夫したりしていくことが大切になる。

調べ・考え・表現する段階では、実感的な課題意識をもって課題を解決していくために、2つの過程を通る。一つは、必要な基礎・基本の事項について教科書で学んでいく習得の過程である。もう一つは、習得した内容からより深まった課題をつくり、解決していく過程である。これは、活用の過程といえるものである。これまでの研究とつないで考えると、習得の過程においては、教科書教材の活用を、活用の過程においては、地域教材の活用を図ったより焦点を絞った課題に子どもたちが取り組んでいくことになる。こうすることで、子どもの追究意欲が高まっていく。

#### ▼「まとめ・つなげる」段階におけるポイント

意欲が継続していくことで、問いはさらに深まり広がっていく。その場合、自分の伸びをメタ認知し、自信をもつことでの意欲づくりが大切である。学んだ事をもとに社会の一員としての自覚を生み出し、参画へつながる課題意識をもてるようにしていく。社会へのまとめとつなぎをどう考えるか、どう設定するのが（ゴールをどう設定するかが）、単元づくりの上で非常に重要になってくる。

### ③ 思考の質を高めるための方策

かつて、社会認識を深める学習論が唱えられた頃には、思考力の育成に向けて「思考操作」の研究が注目された。この当時から社会認識を深めるための思考力の育成が重視されていたことが分かる。その後、平成20年度の学習指導要領では、「思考と表現の一体化」とそれに伴う「言語活動の充実」が課題となってきた。子ども主体の学習とは、子ども自らが思考し、知識や概念を獲得していく学習に他ならない。

思考力を育てるとは、物事を構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために、種類や用途、場所、時間経過などで分析したり、類別したり、関係付けたり、条件を変えたりしながら、思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは、知識を構造化している過程としてとらえることが大切である。

つまり、思考力を育てるために大切なのは、正しい知識の理解にあたって、過ちやつまずき、意識のずれを自分で発見して、それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は、思考の構造の中に確実に組み込んで、より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と呼ばれている。

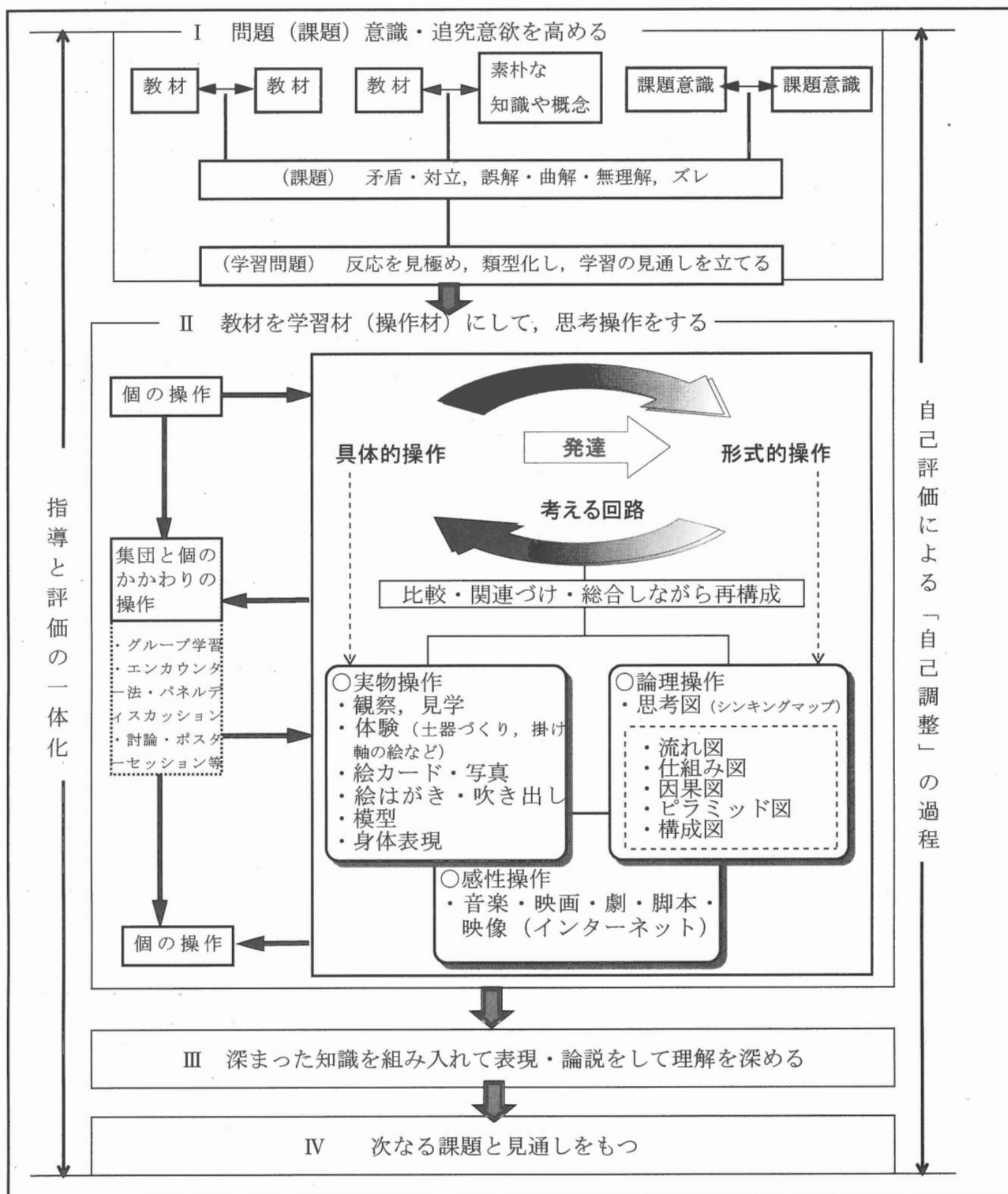
思考の質的な発達を促すためには、活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は、社会的事象の矛盾や対立の場面であり、課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで、学習に意欲的に取り組むようになり、飛躍的な発展にもつながってくる。子どもの思考の過程を図示すると次のページのようになる。

まず、教材の矛盾や対立から問題（課題）意識・追究意欲を高める。そして、反応を見極め、類型化し、学習の見通しを立てていくのである。そして、教材を子どもたちが操作できる学習材にして、集団と個のかかわりを考えながら思考操作を行う。比較・関連・総合しながら再構成することにより、自らの力で知識を概念化していくのである。

このように、主体的に問題を解決し、新しい知を創造していく過程こそ、これからの世の中を生きていく子どもたちにとって必要なものである。

このような思考の過程は、教師にとっても見えにくいものである。そこで、学習材の開発に合わせて、「思考の構造」（子どもが思考する道筋）を明らかにすることに従来から取り組んできた。その中心としたのが、「思考図」（シンキングマップ）の活用である。このことによって、「思考と表現」の一体化による活動の充実を図ってきた。今後も積極的に活用していきたい。

下に、香社研が考える子どもの思考の過程について示しておく。



### Ⅲ 研究主題探究の具体的研究内容・方法

#### 1 社会科授業づくりの基本を学び合う研究内容と方法

##### (1) 研究の継続を踏まえて

平成20年度まで続けられてきた社会科ノートの活用, 教科書の活用の研究を軸にした社会認識をひらくカリキュラム研究を継続しつつ, 平成21年度は「意欲づくり」, 平成22年度は「思考と表現」, 平成23年度は「指導と評価」の研究とテーマに迫る視点を変え, 主として指導方法について研究し改善に努めてきた。夏季研・定例研等の確かな実践により, 単時間における学習の内容や指導方法は充実してきた。しかし, 学校現場の社会科授業が改善されたかという点, まだ難しい状況にある。



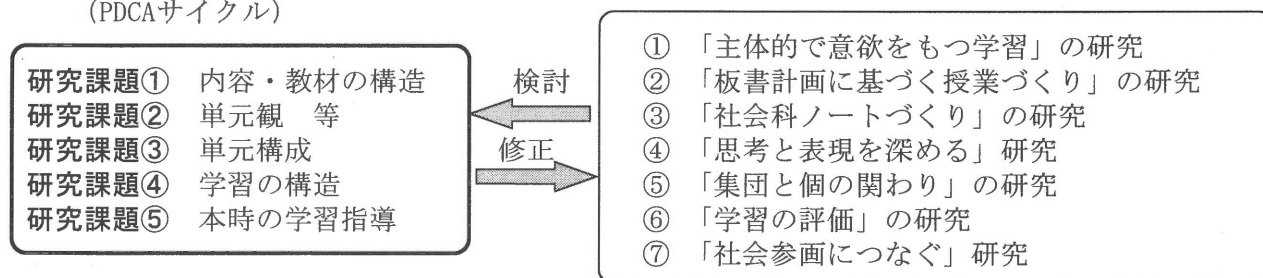
そこで、平成24年度は文部科学省教科調査官・澤井陽介先生のご指導を受け、平成20年度までの研究を生かして、すべての担任が連続的につながりのある社会科授業が展開できるよう「社会認識をひらく指導計画（単元計画）」を作成することにした。香川県下の各学校のカリキュラムの基軸になる「地域版のカリキュラム・指導計画」をつくり、それに自校の特色ある地域教材を取り入れ、授業の日常化に生かしてもらおうと取り組み、その一部を冊子にまとめることができた。すべての学級担任が取り組む社会科であるからこそ、伝統として研究を行ってきた「社会科の本質を求める授業」を目指していきたいと考える。そのために、今まで研究してきた「意欲づくり」「思考と表現」「指導と評価」といった視点を基盤にして、教科書や社会科ノートの活用を生かすことが大切である。そして社会に参画する資質や能力を高める教材につ

いては、教科書教材と地域教材を主とし、ネタ的なその場限りの教材は避け、子ども自らが本質を求めていけるような授業づくりを目指す方向で研究を進めてきた。

## (2) 授業づくりの基本を学び合う方策

平成28年度の全国大会に向け、平成25～27年度は、今までの成果を踏まえ「授業づくりの基本」を指導計画づくりの過程で学び合うことにより、指導計画を充実するとともに、課題についても明らかにすべく、研究を進めてきた。具体的には、下に挙げる7つの視点から研究を進めつつ、指導計画の中での「内容・教材の構造」「単元観」「単元構成」「学習の構造」「本時の学習指導」のどこに課題が存在するかを検討し、修正を行いたい。その際、「育成すべき資質・能力」も考慮していきたい。

(PDCAサイクル)



## 2 全国大会に向けて

平成28年度2月に本県で開催される全国大会は、新学習指導要領の告示の時期と重なっている。主題にも掲げている「社会参画」や「資質・能力」をどう捉え、具体化していくかが改訂の目玉となる。しかしながら、これまで香社研や社会科教育が大切にしてきた「社会科の魅力とは何か」という問いの追究も忘れてはならない。国の動向をうかがいながら、これまで積み上げてきたものを整理し、香川県から新たな時代の社会科教育を発信していけるよう、多くの人とともに汗を流していきたいものである。

#### IV 参考文献

- 「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008年
- 「子どもの思考力」 滝沢 武久 岩波書店 1984年
- 「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009年
- 「学ぶ意欲の心理学」 市川 伸一 PHP新書 2001年
- 「学習心理学」 辰野 千寿 教育出版 1994年
- 「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 東洋館出版社 2008年
- 「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008年
- 「自己調整学習の理論」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳  
北大路書房 2006年
- 「自己調整学習の実践」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳  
北大路書房 2007年
- 「自己調整学習と動機づけ」 バリー・J・ジーママン, デイル・H・ジャンク編著 塚野州一編訳  
北大路書房 2009年
- 「自己調整学習の成立過程」 伊藤 崇達 北大路書房 2009年
- 「小学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省 2008年
- 「社会認識教育の構造改革」 社会認識教育学会編 明治図書 2006年
- 初等教育資料 3月号 「社会参画への意欲や態度を形成する教育の推進」 2012年
- 「新しい公共を担う人びと」 奥野 信宏 栗田 卓也 岩波書店 2010年 など
- 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—」  
文部科学省 2014年
- 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書7  
「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」 国立教育政策研究所 2014年
- 初等教育資料 7月号 鼎談「問題解決的学習の充実をどう図るか」 2014年
- 社会科教育 8月号 「新視点で考える教材と授業作り」他 澤井陽介 2014年
- 社会科の授業デザイン 澤井陽介 東洋出版社 2015年

# 本年度総括 さぬき・東かがわ社研

報告者 東かがわ市立三本松小学校 白澤 一修

研究主題

思考力の育成をめざした学習プランの開発  
～子どもの問いをつくり、深め、広げる～

## 1 研究主題について

本部会は、「思考力・判断力・表現力の育成」という観点から、児童が主体的に協働的に活動できる社会科を目指して取り組んできた。サブテーマに「子どもの問いをつくり、深め、広げる」とし児童の問いを中心に単元構成を再考していくことを共通理解し、単元構成の始めに問いをつくり、予想と実際の違いやズレを大切にしながら問いを深めていく。さらに新たな問いを明確にし、問いを調べて得た知識や技能、表現力を使い、社会に発信していくことで社会参画に取り組むこととした。

〈本年度の具体的な研究内容〉

- (1) 教材開発について（教科書・副教材活用）
- (2) 問いについて主体的に深めることができていたか。
- (3) 思考力の育成と児童の表現活動の関わり（言語活動について）

## 2 研究の実践

- (1) 第1回研究会 6月23日 会場 さぬき市立石田小学校

- ① 研究授業 5年 単元名「あたたかい土地のくらし」  
授業者 さぬき市立石田小学校 教諭 山崎 悠

### 授業説明

沖縄を訪問する観光客は児童の予想としては8月が一番多いだろうと考えられる。でも実際は8月以外にも多いことが分かる。年間を通して観光客が多いのはなぜか。ここで新しい問いが生まれるようにした。しかし、それを調べる資料が少なかった。8月以外で観光客が楽しめるものとして水族館やプロ野球のキャンプ・ゴルフなどの娯楽的な資料や観光局の来県者数グラフなどの資料を活用すると具体的な表現ができたと思われる。

### 研究討議（KJ法によるグループ討議）

- ア なぜ、沖縄にはたくさんの人が訪れるのか。南牧村は夏だけが多いが沖縄は年中観光客が訪れる。比較することはよかった。しかし、問いには、「なぜたくさんの人が訪れるのか。」「何月に訪れるのか。」などズレがみられる。そのためにグループでも話し合いの視点がずれてまとまりがなかった。
- イ 資料と問いが結びついていない。長野県と沖縄県の資料を比較すると違いが見えてくるのではないか。
- ウ 観光業をメインにするにはどんな資料を用意すればいいのか吟味する必要がある。例えばホームページ等の資料から文化や歴史、自然、食べ物等のテーマを決め、意見交流することにより資料から得た情報を共有化していくことが問いを深めていくことにつながる。

- ② 指導 さぬき市立長尾小学校 教頭 亀井 健男

- ア 沖縄は日本の国土の中では、気候と位置に特色のある県である。他の地域と比べることで沖縄の特徴が分かる。そこから日本には特色のある気候と国土の関係があることに気付くことができる。
- イ 季節ごとの暦があれば年間を通して「たくさんの人が来る」につながる行事等もよくわかったと思う。
- ウ 学習問題について、教師が提示する学習課題に対して分かっていることを整理し、それ以外を価値ある問いとする。それに対しての予想を大切に、クラスで学習問題を作成することも問いを広げることにつながるであろう。

- (2) 第2回研究会 7月24日 会場 さぬき市立さぬき南小学校

香小研社会科部会夏季研修会での提案検討会

- ① 内容

夏季研修会へ向けて提案内容を部員で検討する。江崎教諭の提案内容について共通理解を図り、地域の特色の表作りのワークショップを行った。その後、協力者のワークショップにおける役割分担を確認。

(3) 第3回研究会 11月26日 会場 さぬき市立さぬき北小学校

① 研究授業 4年 単元名「きょう土を開く」

授業者 さぬき市立さぬき北小学校 教諭 江崎 広典

**授業説明**

総合で「地域の発展に尽くした人」を学習しているが、児童はあまり知らない。そこで、地域で盛んな稲作に注目した。そして、疑問を持つことをねらいに猿橋水路の調査を行った。本時は学習計画を立てる授業で、児童が主体となった学習ができるように考えた。調べ方、まとめ方まで見通しを持たせた方が意欲につながると考えた。

予想以上に疑問が多く出た。子どもの言葉も大切にしたいかったので時間がかってしまった。  
今後の進め方について知りたい。

**研究討議**

ア 身近な人物を取り上げ、地域教材の「見える化」ができています。児童たちは主体的な活動ができていた。ゲストティーチャーを招き、貴重な考えや思いを残すとよい。さらに立体模型があればよく分かっただろう。

イ 疑問の分類については児童に考えさせたいという授業者の思いもあったが、班の中で分類をしておくことで時間短縮ができたのでは。

ウ 「価値ある問い作り」という点で、始めに見学に行ったのはよかった。視点を持たせて見学することが大切だ。その際、インタビューができればよかった。今後、人材開発が必要である。知っている人からいろいろな情報を得ることや水が通ったという実感があることで意欲的に取り組める。実際に行くことの大切さを確認した。

エ 資料が少ないので、子どもの疑問に答えきれない。地名辞典等で取れ高などを調べ、子どもと作っていくこともできる。ねらいと活動にずれがあったように思う。「学習計画」という言葉に違和感がある。

オ 「まとめ」はだれが書くのか？子どもが自分なりに分かったことを書くのがいいのではないかな。

カ 子どもの疑問の「コンクリートをなおしたのか。」ということから、「現在も使われている。」「これからも使われる。」と考えられる。「どうやってそれまでは作物を育てていたのか。」は子どもにとって関心があることだ。他の子が思いついていない疑問をどう拾い上げるか考え、少数意見も大切にしたい。

② 指導 さぬき市立神前小学校 校長 廣瀬 強

授業者は取り上げる人物について熟慮した。新しい教材作りは大変だが、よくできていた。

ア 教材開発について

素材を見つける。→ 指導要領を見る。(先人のねがい、苦心、具体的、用水等) 具体的→資料館へ行く、現物を見るなど。教科書を見る。学習の手順を調べる。何をもとに調べるか、わかったこと、わからないこと、疑問をどんどん出す。(年表→ねがい→時代背景→博物館や人の話→模型を見て知る→発表)

イ 教科書の流れを猿橋伝衛門で教材化できるか検証する。客観的事実、資料が少ない。水路を作ったことは事実。津田川と鴨部川がつながると沼地になる。そこで堰を作った。谷間を流れる津田川、平地に流れる用水。これは地図や等高線を調べると分かる。水路ができたことで稲作ができるようになったことも分かる。

ウ 現物の見学ができる。農機具を使ったことが推察されるので、歴史民俗資料館で体験が可能である。

用水により生活が変わったことは価値がある。

**\*留意点**

○教科書を併用することが必要。

○歴史的背景を知ることが大切。小作人の生活は困窮していた。高松藩も貧窮していて搾取が激しかった。砂糖の精製も藩がしていた。

干ばつと洪水の繰り返しで生死にかかわるきわどい時だった。

用水を願い出てもすぐには許されなかった。

☆ 地理・地図学習、歴史学習をすることで、猿橋伝衛門を取り上げることは可能である。

# 本年度総括 小豆社研

報告者 土庄町立土庄小学校 平林泰徳

## 1 研究主題

社会認識を深め、社会に関わる力を育てる学習

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究主題について

社会認識を深め、社会に関わる力を育てるためには、社会に対するものの見方、考え方を身に付けることが不可欠である。そのために学習過程において、問題解決的な学習を設定しなければならない。

その展開の筋道として考えられるのは、

- ① 社会事象に関して事実認識を明確にすること
- ② 事実と事実を関連付けて理解させること
- ③ 社会事象の意味や働きを考えさせること
- ④ 学んだ意識をもとに自分の意思や価値判断を明らかにすること である。

このように、段階を踏むことによって、子どもの意識と思考の流れに沿った学習展開が可能になり、社会認識を育てていく素地が培われていくと考える。さらに、子どもの内面に現れた驚きや戸惑い、葛藤から発生した問題意識をもとに、効果的な資料の提示や調査、インタビューなどの体験的活動、自分で調べたことや考えたことを話し合い、発表する場を設定することによって、追求意識が継続され、社会認識が育ち、社会と関わる力が育っていくと考えられる。

社会認識を深めることについては、地域社会や我が国の社会生活、社会変化とその対応、我が国の歴史や伝統・文化、社会の一員としての参画といった各単元の社会事象について、観点に沿った情報収集や思考操作による整理などが行え、自分なりの言葉で正しく解釈できる力を伸ばしたい。そのために、どのような手だてが有効か探りたい。そして、社会に関わる力としての、地域や我が国に対する誇りや愛情、よりよい社会を持続するために自ら取り組もうとする態度や能力を、どのように育てればよいかを探るようにしたい。

### (2) 研究活動

| 日 時           | 活 動         | 内 容                                          |
|---------------|-------------|----------------------------------------------|
| 平成27年4月24日(金) | 事業計画        | 組織づくり・研究テーマ・年間計画立案                           |
| 5月29日(金)      | 第1回授業研究     | 第3学年「わたしのまち みんなのまち」<br>授業者 土庄町立土庄小学校 岡 亨     |
| 7月28日(火)      | 香小研夏季研修会    | 第3学年「わたしのまち みんなのまち」<br>提案者 小豆島町立安田小学校 林 宗利   |
| 9月16日(水)      | 第2回授業研究     | 第3学年「店ではたらく人」<br>授業者 小豆島町立星城小学校 上嶋光晴         |
| 10月3日(土)      | 香社研定例会      | 第5学年「情報化した社会とわたしたちの生活」<br>提案者 土庄町立土庄小学校 平林泰徳 |
| 平成28年2月20日(土) | 社会科フォーラムカップ | 第3学年「店ではたらく人」<br>授業者 小豆島町立星城小学校 上嶋光晴         |

## 3 研究実践について

### (1) 単元構成

|              | わたしのまち みんなのまち                                                                                      | 店ではたらく人                                                                                         |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題をもつ・見通しをもつ | 第1次(2時間)<br>学校のまわりの歩いて通える場所について調べる学習の計画を立てよう。<br>◎ 学校まで歩いて通える場所にはどんな場所があるのか、調べるための計画を立て、学習問題を設定する。 | 第1次(2時間)<br>学習計画・学習問題を立てよう。<br>◎ 販売に関する仕事に見られる特色、他地域などとの関わりを理解し、販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考え、学習問題を立てる。 |
| 調べる・考える・表現する | 第2次(11時間)<br>学校のまわりをたんけんして、地図を作ろう。<br>◎ 学校のまわりを3つのコースに分けて、特色ある地形、土地利用の様子、公                         | 第2次(3時間)<br>スーパーマーケットを見学しよう。<br>◎ 見学に関する学習問題づくりを行う。<br>◎ スーパーマーケットの見学を実施する。                     |



|      |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | <p>共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから伝わる建物などについて調べて白地図に記録し、1つの絵地図にまとめる。</p> <p>第3次(3時間)</p> <p>まとめた絵地図や航空写真から、学校のまわりの様子を見てみよう。</p> <p>◎ より見やすい絵地図を作り、学校のまわりの様子についてわかったことをまとめる。</p> | <p>第3次(2時間)</p> <p>店のしごとについて知っておこう。</p> <p>◎ 教科書、副読本「私たちの郷土 小豆島」を活用して、基礎的・基本的内容を習得する。</p> <p>第4次(2時間)</p> <p>スーパーマーケットの人気のひみつをまとめよう。</p> <p>◎ 見学で得た情報やこれまでの学習の成果を整理してまとめる。</p> |
| まとめる | <p>第4次(4時間)</p> <p>ガイドマップを作って、学校のまわりのおすすめポイントを紹介しよう。</p> <p>◎ 学校のまわりの様子について見つけたことやわかったことをガイドマップにまとめて、土庄町を訪れた人に紹介する。</p>                                                | <p>第5次(3時間)</p> <p>これからのスーパーマーケットを考えよう。</p> <p>◎ キーワードを文章の中に取り入れながら、学習のまとめとして、ミニ論文を書く。</p> <p>◎ 消費者の立場から今後に望むものを発信する。</p>                                                      |
|      | <p>学校のまわりの身近な地域には、さまざまな場所があり、地形や土地利用、建物や交通の様子には、場所によって違いがある。</p>                                                                                                       | <p>地域には、販売に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることを理解する。さらに、これらの仕事に見られる特色、他地域との関連を理解するとともに、スーパーマーケットの存在価値を実感する。</p>                                                                           |

## (2) 社会認識を深め、社会に関わる力を育てる方策

### ① 「わたしのまち みんなのまち」

探検コースを確認する際、白地図と併せてタブレットを活用して、地球儀ソフトで校区の西に広がる平野と北や東の地形に注目できるようにした。また、学習の見通しをもつために、指導者用デジタル教科書を活用した。

土地の利用の様子と交通の様子、地形の様子と土地利用の様子など、調べたことをカード操作により関係付けて考え、表現できるようにした。学校の周りの地図に撮ってきた写真や取材してきたインタビュー記事などをまとめた絵カードを貼り付け、地域の人々のくらしの様子が見えるようにし、それらについて説明する時間を設定した。

学習の最後に学校周辺のガイドマップを作成し、フェリー乗り場や町役場等で配布して自分たちの学校のまわりの素敵なところをPRした。

### ② 「店ではたらく人」

「産地」や「品質」「地域貢献」など主な社会科用語の理解や、スーパーマーケットに関する基礎的・基本的内容の把握に、教科書と郡教育会作成の副読本を併用した。

スーパーマーケットの見学とインタビューによって各自が得た情報を短冊カードにまとめ、全体場で発表した。発表された内容を、5つの観点に分けて再構成することで、スーパーマーケットの工夫や地域に果たす役割を系統的にとらえるようにした。

### ③ 共通

学習のまとめ段階でミニ論文を書くようにした。表現・操作の重層化を図ることにより、公民的資質を育むとともに、社会的な見方・考え方ができる力を伸ばすことができると考えた。

## 4 本年度の成果

ICTの適材適所活用により、児童の学習意欲が向上した。また、学習内容の焦点化や共有化が図れたり、地形や探検コースのイメージ化や空間認識、理解の深まり・広がりが見られたりした。

観点に沿ったカード操作(分類、統合)を通して、思考した内容を表現する活動を行ったことで、比較・類別という「社会を見る目」を育てることができた。

## 5 本年度の課題(来年度の方向性)

郡内における若年および中堅教員による社会科学習の研究体制を、現状からどのようにつないで深めていくか。学年段階に沿った思考の可視化を、どのように体系づけるか。

# 本年度総括 高松社研

報告者 高松市立十河小学校 真鍋 長嗣

## 1 研究主題

「自ら社会参画を求め、社会科本来の魅力を創る教育」

～ 社会科の目標、資質・能力、内容の研究を深め、  
「授業評価演習」形式による高松市社研の研究体制の確立を図る ～

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究主題について

昨年度は研究テーマを研究テーマを「自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る教育」、サブテーマを「『板書』と『評価』で授業改革」と設定し、板書については、単元内におけるそれぞれの学習過程でどのような板書のあり方があるのか、そしてそれによりどのように授業づくりをしていけばいいかということについて研究を進めていった。また、評価については「単元・評価票」を活用し、評価の日常化を図った。ただ、研究を進めていく中で「次期学習指導要領の改訂に向けて、国の動向を見据えた研究を進めていく必要がある。」「全国大会に向けてこれまでの市社研の研究を整理するとともに、研究体制の確立を図っていく必要がある。」といった課題も出てきた。

そこで、本年度は研究テーマを「自ら社会参画を求め、社会科の魅力を創る教育」、サブテーマを「社会科の目標、資質・能力、内容の研究を深め、『授業評価演習』形式による高松市社研の研究体制の確立を図る」と設定した。育成すべき資質・能力を指導計画の中に位置づけるとともに、「問題をもち、見通しをもつ段階」「調べ、考え、表現し、まとめる段階」「つなぐ段階」において、どのような指導・支援を行うことで社会認識を深め、問題解決的な学習が確立できるか、そして社会参画の素地を養いながら実践化へとつなげていけるかを授業研究の中で探っていった。なお、本年度の主な研究内容は、以下の通りである。

### 【主な研究内容】

#### 1 社会科の目標、資質・能力、内容についての研究

##### (1) 指導計画の作成と実践の研究

- ① 単元観 ② 資質・能力、内容・教材の構造 ③ 目標と評価規準  
④ 単元構成 ⑤ 学習の構造 ⑥ 本時の学習指導

##### (2) 授業にともなう研究

- ① 板書 ② ノート ③ 読解力の育成 ④ 学習評価

\* なお、学習指導要領改訂にともなう作業の情報（論点整理等）を取り入れて研究を深めていく。

#### 2 定例研の授業を通した「授業評価演習」による授業研究

授業後の研究討議を「授業評価演習」形式により活性化を図り、全国大会授業分科会の協議の在り方を探る。

#### 3 高松市社研・研究紀要（全国大会記念図書）の作成に着手する。

### (2) 研究活動

| 日時                                 | 活動                                                    | 内容                                                                             |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 4月16日<br>6月11日<br>6月 6日            | 教科主任研修会<br>市定例研修会①（教科研）<br>十河小・全小社研へ向けた<br>公開授業事前研修会① | 本年度の運営、研究、各種事業の計画等<br>各ブロックごとに授業研究、研究討議<br>3年（市のようす）指導案検討                      |
| 7月24日<br>7月28日<br>10月10日           | 夏季研修会（市）<br>夏季研修会（県）<br>十河小・全小社研へ向けた<br>公開授業事前研修会②    | 全国大会記念図書作成に向けての検討<br>分科会Ⅱ提案（牟礼小・平井小実践）<br>4年（総合）5年（環境）指導案検討                    |
| 10月24日<br>10月29日<br>2月13日<br>2月20日 | 香社研定例研修会<br>市定例研修会②（教科研）<br>市社研研究委員会<br>香社研研究フォーラム    | 実践提案（木太北部小実践）<br>各ブロックごとに授業研究、研究討議<br>今年度の研究の総括、大会記念図書編集作業<br>実践提案（牟礼南小、塩江小実践） |

### 3 研究実践について

|               |                |
|---------------|----------------|
| 第1回定例研修会（教科研） | 平成27年 6月11日（木） |
| 第2回定例研修会（教科研） | 平成27年10月29日（木） |

今年度も例年通りに北、南の2ブロックに分かれ、毎回4校を会場とし、研究実践を行っていった。第1回の定例研修会では、単元構成の3つの段階において提案性をもたせ（㊦アクティブ・ラーニングの視点に立った学習問題づくり、㊦深まった課題の設定、㊦社会参画につなぐ単元構成等）、学年に応じた授業づくりに取り組んだ。また、第2回の定例研修会では、短冊やカードを活用した思考操作の場の設定や、これからの地域や国の在り方を考える学習などについて議論を深めることができた。

|            | 授業者                                 | 単元名                 | 実践の概要                                                                     |
|------------|-------------------------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 第1回<br>教科研 | 北ブロック<br>木太北部小学校<br>中山 三千雄          | 3年「市のようす」           | 絵地図と土地利用図を往還して高松市の特色をつかむとともに、最終的には自分たちの校区へとつなげ、地域創生のアイデアを考えていった。          |
|            | 牟礼小学校<br>黒川 幸宣                      | 6年「武士の世の中へ」         | 鎌倉に幕府が開かれた要因について、グループごとに違うテーマで調べて交流することで、主体的・協働的な学習へとつなげていった。             |
|            | 南ブロック<br>香南小学校<br>黒川 浩一             | 6年「武士の世の中へ」         | 教科書の概観から見つけたキーワードを類別操作することにより、単元の課題と問題を設定していく「問題をもち見通しをもつ段階」の在り方を提案していった。 |
|            | 平井小学校<br>小川 知樹                      | 3年「三木町のようす」         | 平地部や山地など同じ土地のようすをしている地域同士を比べ、土地利用が同じでも人の営みが違うことに気付かせる授業づくりを行った。           |
| 第2回<br>教科研 | 北ブロック<br>牟礼南小学校<br>中田 由紀恵<br>太田 加麻里 | 3年「農家の仕事」           | 見学に行った後に情報を整理し、話し合うことで「深まった課題」を設定し、思考操作することで、農家の仕事の工夫について概念化を図った。         |
|            | 牟礼北小学校<br>古川 夕希子                    | 4年「ごみのしやりと利用」       | ごみ処理の仕方の変遷年表から今のごみ問題についての課題を見つけるとともに、今後のごみ処理の在り方について解決策を考えていった。           |
|            | 南ブロック<br>田中小学校<br>三橋 雅人             | 6年「世界に歩み出した日本」      | 明治時代を3つの視点（政治、産業、人物・文化）で整理し、世界に認められるようになった要因を調べたり考えたりしていった。               |
|            | 塩江小学校<br>山階 史子                      | 5年「これからの食料生産とわたしたち」 | 育成すべき資質・能力を「情報対比力・情報構成力」とし、食料問題についての解決策や今後の在り方についてポスターにまとめていった。           |

### 4 本年度の成果

- (1) 教師主導の学習から、子どもの主体性を大切に学習に転換するために、子どもの既有的知識や経験を教科書の概観などをつないで学習問題を子どもとともに設定すること、「深まった課題」による真の問題解決につながる思考操作の場を設定すること、学んだことを発信することで社会参画の素地を養うことなどについて、子どもや地域の実態に応じた研究が進められた。

【問題解決的実践学習の推進】

- (2) これからの子どもたちに必要とされる資質・能力を各実践で設定し、「資質・能力、内容、教材の構造」「学習の構造」など、指導計画の中に位置づけられた。

【資質・能力についての研究】

### 5 本年度の課題

- (1) 平成28年度の全国大会へ向けて、これまでの実践を整理していき、市社研としての研究の歩みを全国大会記念図書としてまとめ（現在編集）、全国に発信していきたい。【全国大会記念図書】
- (2) 全国大会の分科会の持ち方をよりよいものにするために、今年度より試みた「授業評価演習」については、今回の取り組みをもとに発展させることで、分科会の活性化を図りたい。【授業評価演習】

# 本年度総括 坂出・綾歌社研

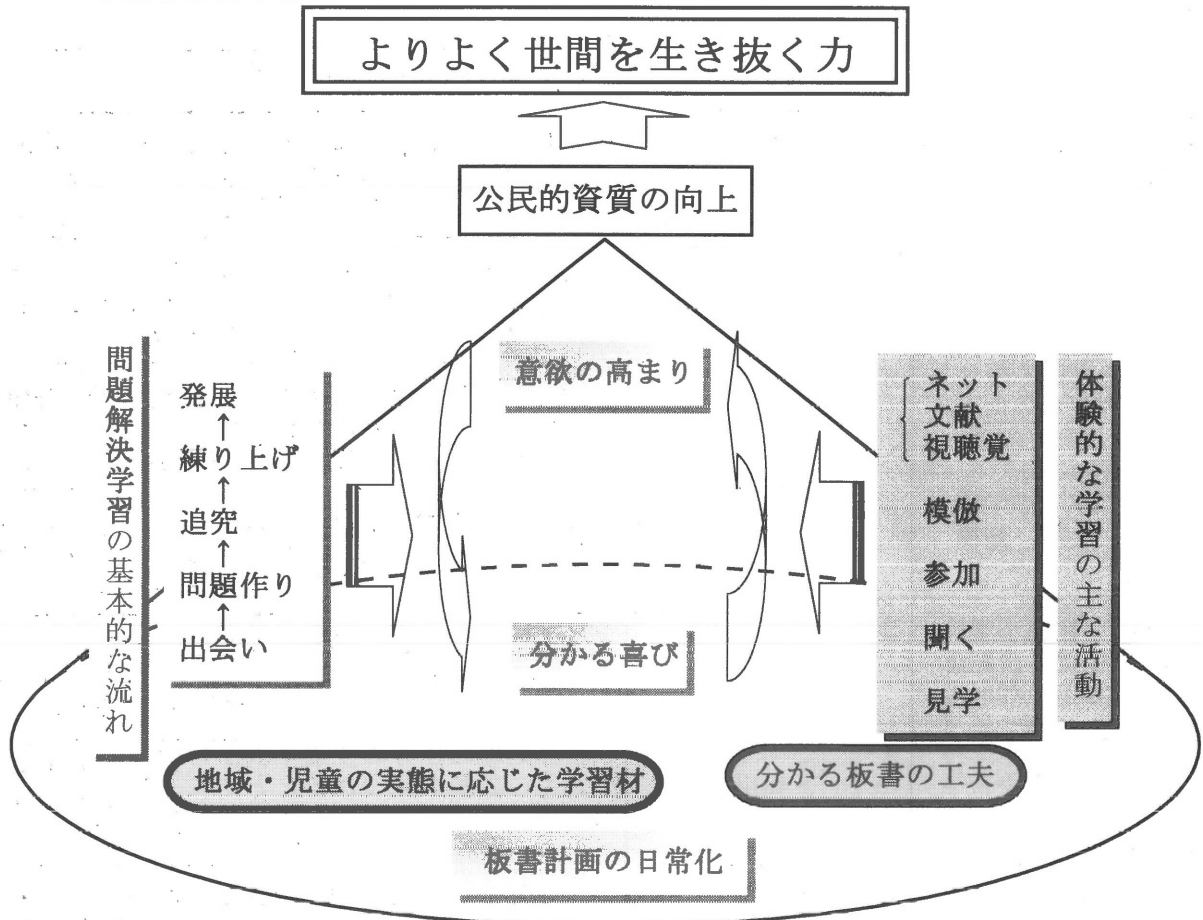
報告者 宇多津町立宇多津小学校 河野 富男

## 1 研究主題

### 分かる喜びを実感できる社会科学習の展開

— 板書を通して対話の活性化を図る —

## 2 本年度の研究の概要



### (1) 研究主題について

「分かる喜びを実感できる社会科学習の展開」をテーマに研究を進め、今年度の夏季研究会に向けて思考力育成を中核にして研究を行った。その際、21世紀型能力を参考にし「問題解決力・発見力・創造力」は学習問題設定から問題解決の過程で、「論理力・批判的思考力」は資料を活用した調べや話し合いの過程に、「メタ認知・適応的学習力」は振り返りの過程に関わっていくと考えた。

今年度は副主題として対話の活性化の視点から板書計画を作成することにより、授業の交流の場面で、複数の意見とその展開に焦点化し、必要な補助資料、支援などを準備して授業に臨むことができる。思考力を駆使して意見を比較・関連しながらより良い解決や新しい知識を作っていく過程を通して児童が分かる喜びを実感できると考えた。そして、「意欲化」「資料活用による対話」「思考力」「振り返り」の4つの研究の視点を設けた。

#### 坂・綾社研で目指す児童像

- 社会的事象に驚きや疑問を感じ、意欲的に追究することができる児童
- 既習の基礎・基本の事柄や内容を使って、話し合うことができる児童
- 調べたことや話し合ったことを根拠にして、様々な立場から考えをまとめることができる児童
- 問題解決や学び合いの過程を振り返り、生活に関連付けて考えることができる児童

## (2) 研究活動

| 日にち       | 場所     | 研修会名         | 内 容                    | 参加者      |
|-----------|--------|--------------|------------------------|----------|
| 3月下旬      | 坂・坂出小  | 事前検討会        | 27年度の役割分担・計画           | 研究部      |
| 4月15日(水)  | 綾・宇多津小 | 坂綾小研総会       | 27年度の組織作り              | 坂綾全員     |
| 5月15日(金)  | 綾・昭和小  | 坂綾小研教科研事前検討会 | 研究授業Ⅰの事前研修会            | 坂綾全員     |
| 6月3日(水)   | 綾・昭和小  | 坂綾小研教科研      | 研究授業Ⅰ                  | 坂綾全員     |
| 7月11日(土)  | 綾・陶小   | 夏季研事前研修会     | 夏季研事前研全体提案, 分科会提案打ち合わせ | 香小研社会科部員 |
| 7月27日(月)  |        | 夏季研事前研修会     | 夏季研事前研全体提案, 分科会提案打ち合わせ | 坂綾全員     |
| 7月28日(火)  | 綾・陶小   | 夏季研          | 夏季研                    | 研究部      |
| 10月6日(火)  | 坂・川津小  | 坂綾小研教科研事前検討会 | 研究授業Ⅱの事前研修会            | 研究部      |
| 10月28日(水) | 坂・川津小  | 坂綾小研教科研      | 研究授業Ⅱ                  | 坂綾全員     |
| 1月13日(水)  | 坂・坂出小  | 研究フォーラム事前検討会 | 研究フォーラムの役割分担等          | 研究部      |
| 2月20日(火)  | 附属坂出小  | 研究フォーラム      | 研究フォーラム発表              | 香小研社会科部員 |
| 3月4日(金)   | 坂・坂出小  | 研究部研修会       | 次年度の研修の計画              | 研究部      |

### 3 研究の実践について

授業研究Ⅰでは、「消防団は、本当に必要かどうか話し合おう。」という学習問題で授業を展開した。複数の資料や児童の予想をもとに消防団がある理由を考え明らかにしていく授業であった。授業の後半では、消防署の方にゲストティーチャーとして来ていただき消防署と消防団は互いに協力している。そのために、地域の方は自分たちの手で安全を守っていることを全体で話し合い児童たちが予想した磁石の操作活動を板書で行うことで対話活動を促すことができた。

授業研究Ⅱでは、「農家の仕事とわたしたちの生活はどう繋がっているのだろう。」という学習問題で授業を展開した。児童は農家の仕事カレンダーを見て「季節に合わせて作物を作っている」「ビニールハウス等で収穫の時期をずらす」等と予想し、実際に農家の方のゲストティーチャーの話から農家の方はおいしい野菜を食べてもらえるためにいろいろな工夫を行っていることを捉えることができた。グループから全体への話し合い活動により思考していく、板書資料を中心にして話し合いを深める提案性のある授業であった。

### 4 本年度の成果

#### (1) 地域と関わりながら自分の考えを見直すことができた

学習問題に対して考えを出し合い、交流し合うときに、学級内の友達に限らず、地域の方を招いて話しを聞き、自分の考えを吟味したり、検討したりする場を設けた。また、自分たちの考えを保護者の方へ提案し、コメントをもらったり、ゲストティーチャーから評価してもらったりして考え振り返った。そうすることで、社会性のある思考や判断ができるようになった。

#### (2) 資料活用による対話ができる

資料の選択、提示の工夫を行った。4年生では、側面に貼られた「火事現場での協力体制」の仕組み図を参考にすることで、「消防団は連絡が消防署より遅れる」などの事実気付き後で、「消防団は、本当に必要かどうか、話し合おう」の学習課題に沿って対話を進めていった。その際、両矢印の資料を黒板に貼り、両端に「必要ない」と必要である」と書いた。児童自身が自分の意見の位置を決め、両矢印の上にネーム磁石を置いていき、教師は児童の発言内容を黒板にまとめていった。そうすることで、児童は両矢印上の位置の違いとその根拠を共有しながら対話を進めることができた。

#### (3) 体験の取り入れ方の工夫ができた

体験に根ざした問題解決的な学習が必要であると考え、体験的な学習を積極的に組み入れてきた。単元構想を組む際には、体験活動の位置付けとねらいを明確にしてきた。そのことにより、子ども自らが意欲をもって主体的に問題を見付け、自分とのかかわりの中で問題を解決したり、身に付けた力を生きて働く力にしたりすることができた。

### 5 本年度の課題(来年度の方角性)

「板書を通して対話の活性化を図る日常的な板書計画の活用を通して」として意欲化、資料活用による対話、思考力、振り返り等の4つの視点を中心にして研究を推進し児童にとって分かりやすい社会科学習の授業実践を試みた。2つの研究授業から板書を通しての対話について研究の具体化を図ることができた。夏季研修会では、板書資料や児童の予想等から、思考力を深める授業実践をまとめて提案発表を行うことができた。今後も研究を積み重ねていきたい。



# 本年度総括 丸亀社研

報告者 丸亀市立郡家小学校 和田 早苗

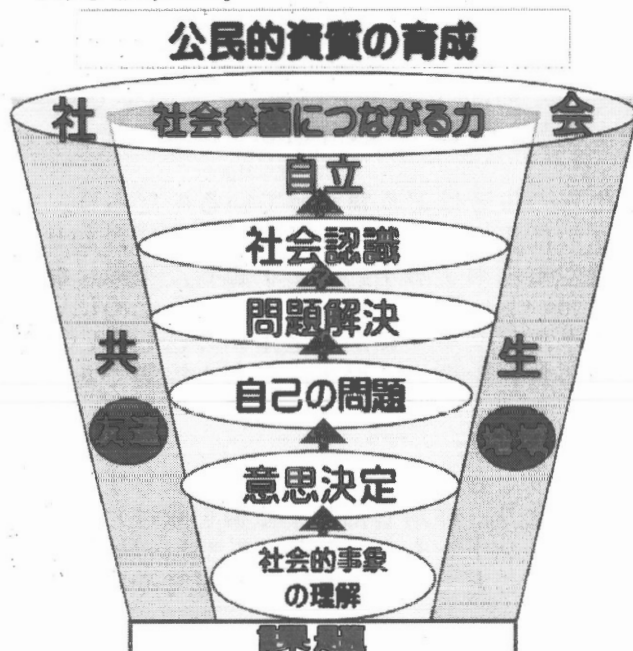
## 1 研究主題

### 自立と共生を育む社会科学習

## 2 本年度の研究の概要

### (1) 研究主題について

これからの時代をたくましく生き抜くためには、小学校段階から社会科を通じて、生涯を通じて学び続ける力、自分の頭で考える力及び他者との協働の中から新しい価値を見出していく力を身に付けていくことが望まれている。丸亀市小学校教育研究会社会科部会では、社会的事象に関する基礎的な知識や概念、技能を身に付け、自分の考えをもち（自立）、他者との協働を通じてよりよい社会を形成しようとする態度（共生）を社会科教育で身に付けるべき資質能力として大切であると考えた。



社会に役立ちたいという気持ちが高まり、社会のために、行動しようとする。



友達との話し合いを通して、自己有用感が生まれる。友達地域等と共生しながら問題を解決していく。



自ら意思決定をすることで、一人ひとりの問題となり、さらに解決しようという意欲が高まる。



課題を設定し、見通しと意欲をもって学習することで、社会的事象の理解がさらに深まる。

### (2) 研究活動

| 日時     | 会場           | 研究内容                                                                         |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 4月15日  | 城乾小          | 研究組織づくり、研究主題決定、年間計画作成、夏季研勉強会                                                 |
| 5月1日   | 城坤小          | 丸小研事前勉強会 6年「武士の世の中へ」                                                         |
| 5月15日  | 城坤小          | 丸小研事前勉強会 6年「武士の世の中へ」                                                         |
| 5月29日  | 城坤小          | 丸小研事前研修会 6年「武士の世の中へ」                                                         |
| 6月3日   | 城坤小          | 丸小研研究授業 6年「武士の世の中へ」<br>授業者 丸亀市立城坤小学校 教諭 秋山 侑大<br>指導者 香川大学教育学部附属高松小学校 黒田 拓志先生 |
| 7月21日  | 城坤小          | 夏季研事前勉強会                                                                     |
| 7月28日  | 綾川町立昭和       | 夏季研実践発表<br>6年「天皇中心の国づくり」 提案者 郡家小 教諭 増井 泰弘                                    |
| 10月9日  | 城坤小          | 定例研事前勉強会 6年「武士の世の中へ」                                                         |
| 10月30日 | 広島県          | 全小社 広島大会 実践発表<br>5年「自然災害を防ぐ」<br>授業者 郡家小 教諭 櫻井 道芳<br>提案者 本島小 教諭 多田 明広         |
| 11月4日  | 城坤小          | 定例研事前勉強会 6年「武士の世の中へ」                                                         |
| 11月7日  | 岡田コミュニティセンター | 定例研修会 6年「武士の世の中へ」<br>提案者 丸亀市立城坤小学校 教諭 秋山 侑大<br>指導者 山内 秀則先生                   |
| 11月19日 | 飯山北小         | 丸小研勉強会 3年「店ではたらく人」                                                           |

|         |      |                              |             |
|---------|------|------------------------------|-------------|
| 1 1月27日 | 飯山北小 | 丸小研勉強会                       | 3年「店ではたらく人」 |
| 1 2月2日  | 飯山北小 | 丸小研研究授業                      |             |
|         |      | 3年「はたらく人のくふうを見つけよう（店ではたらく人）」 |             |
|         |      | 授業者 丸亀市立飯山北小学校               | 教諭 小山 沙織    |
|         |      | 指導者 香川大学教育学部附属高松小学校          | 黒田 拓志先生     |

### 3 研究実践について

#### (1) 研究授業 <第6学年「武士の世の中へー元寇ー」>

##### ー歴史を身近なものと感じさせる教材開発ー

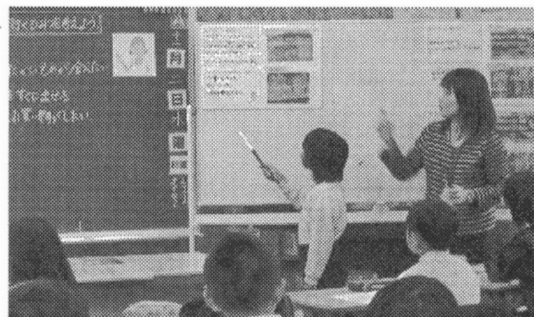
丸亀市の祭り「婆娑羅祭り」に関連した「佐々木導誉」など地域の教材を取り上げた。児童は、元寇の資料から分かったことを付箋に書き出した上で話し合うことで、資料を読み取る力や多様な視点から考える力がついていくと、実感できた。意思決定の場の設定やロールプレイを導入することは、考えを確かなものにする一つの方法として明らかになった。



#### (2) 研究授業 <第3学年「はたらく人のくふうを見つけよう（店ではたらく人）」>

##### ー地域の実態を生かした教材開発ー

校区にあるスーパーマーケットやコンビニエンスストアの学習であったため、児童が自分の問題として考えようとしていた。これは社会参画への素地を養うために意味があると感じた。「買い物名人になって家の人にアドバイスする」という、単元を通した大きな学習課題があったのもよかった。スーパーマーケットとコンビニエンスストアの工夫を比較して学習したことを、さらに「店内図」や「地域の地図」、「店・消費者・地域の関係図」に表現すれば、空間的、関係的に物事を見る力が育っていくと感じた。消費者が変われば店が変わる。「ぼくたちの意識によって店が変わる」と気付く。そこから正しい消費行動に結びついていく。



### 4 本年度の成果

- 平成27年度の重点努力事項「単元を貫く課題を持たせるための工夫」「社会的事象の理解を深めるための工夫」「意思決定する場の設定の工夫」「社会参画へつながる意欲と態度をもたせるための工夫」と大きいテーマにすることで、研究授業の授業者や夏季研修会の提案者が、自分の思いで、授業や提案発表を作っていくことができた。
- 研究主題の共生の部分に関連する「話し合い」には、「まなボード」「ふせん」「ロールプレイ」といったツールや方法が有効であった。
- 「社会参画への素地の育成」の点で、歴史には歴史における「社会参画への素地」づくりがあり、3年生には3年生なりの「社会参画への素地」づくりが必要である。どの学習においても常に教師が社会参画を意識しておくことは大切だと感じた。

### 5 本年度の課題

- 研究主題「自立と共生を育む社会科学習」をめざし、自立の部分「判断・意思決定の場」を授業や単元の中で設けるようにしてきた。社会参画につなぐ部分でも有効であると感じた。意思決定をどのような意味でどんな目的でさせたいのか教師がはっきりとしたものをもっていなければならないとあらためて思った。

## 1 研究主題

# 人間の営みに学び，広い視野を育てる社会科学習の展開

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究主題について

学習指導要領では，社会科の目標について以下のように示されている。

社会生活についての理解を図り，わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

小学校社会科の目標は，「公民的資質の基礎を養う」ことである。この「公民的資質の基礎を養う」ために，「社会生活についての理解を図り，わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」ることが必要とされていると考える。つまり，

- ① 日本の国土，産業，歴史について知って好きになり，
- ② 社会的な見方や考え方を養いながら問題解決的な学習をして，
- ③ よりよい社会にすることができる人間を育てること

が目標であると言える。

そのためには，人間の営みに学び，広い視野を育てる必要があると考える。そこで，本年度の研究内容は，以下のよう設定した。

- (1) 人間の行為に焦点を当てた教材研究
- (2) 広い視野を身につけさせる単元構成

### (2) 研究活動

| 日時     | 活動                  | 内容                                                           |
|--------|---------------------|--------------------------------------------------------------|
| 4月22日  | 香小研仲善支部<br>総会       | 組織・運営について                                                    |
| 6月9日   | 香小研仲善支部<br>社会科部会研修会 | 授業研究 5年「米作りのさかんな地域」<br>授業者 琴平町立琴平小学校 教諭 竹森 仁志                |
| 6月20日  | 香社研定例会              | 授業研究 5年「わたしたちの国土ー全国の人々の暮らしを考えようー」<br>授業者 善通寺市立西部小学校 教諭 藤田 啓明 |
| 7月24日  | 香小研社会科部会<br>夏季研修会   | 提案発表 5年「米作りのさかんな地域」<br>発表者 琴平町立琴平小学校 教諭 竹森 仁志                |
| 11月19日 | 香小研仲善支部<br>社会科部会研修会 | 授業研究 5年「世界とつながる日本の工業」<br>発表者 多度津町立四箇小学校 教諭 滝井 康隆             |

### 3 研究実践について

#### (1) 人間の行為に焦点を当てた教材研究

竹森実践では、「どうして農業で働く若い人が減っているのだろう」という学習問題で、日本の米農家の問題について考えることができた。農家の問題点について、生産量の減少という事象を見ていくのではなく、若い人の就農者の減少という問題点を取り上げることで、児童の危機意識が高まった。

藤田実践では、「低い、高い、暖かい、寒い」の4つの特色ある土地の人々の生活の特色を比較しながら考えることで、日本全国の人々の暮らしの特色を理解させることができた。

滝井実践では、グラフや表等、数字で見ていくことの多い日本の貿易の形について、鉄の生産を通して、それぞれの過程に携わる人に焦点を当てながら見ていくことができた。

#### (2) 広い視野を身につけさせる単元構成

竹森実践では、単元の最初では先進的な大規模農家を取り上げて、その米作りの工夫について考えて行き、素晴らしさについて考えさせていった。その後、単元の中ほどで就農者が減少しているという事実を提示することで、児童に意識のずれを生み出した。この意識のずれを解決しようと、児童は農家の課題について積極的に考えようとした。児童は、就農者の減少について、原因を様々に予想し、資料等から消費量が減少しているためであるという考えを導き出した。

藤田実践では、4つの特色ある土地を調べ、そこに善通寺市も加えて考えることによって、日本には特徴的な地形や気候に住んでいる人々だけでなく、中間的な場所に住んでいる人々もたくさんいることに気付かせることができた。

滝井実践では、日本の鉄鋼生産量について視点を広げて外国と比較し、その多さに気付かせることで「なぜ外国に売れるのか」という単元を通した課題を導き出した。児童は、外国に輸出できる理由を日本の鉄鋼の質の高さと考え、質の高い鉄鋼を生み出すために必要な要因について「技術、原料」と考えた。鉄鋼を作る技術について学んだ後で、原料となる鉄鉱石や石炭が外国からどのように来ているのかを考え、原料から鉄鋼製品までのつながりをまとめていった。

### 4 本年度の成果

どの実践も、授業や単元の中で取り扱う事象を「人間の行為」としてとらえ、考えていくことで、児童の内容理解が深まった。また、単元の流れを考えていく際に、それぞれの単元で学習しなければならない要素について1時間の授業にまとめながら、単元の流れを考えることができた。（“仲善フォーマット”の活用）

### 5 本年度の課題（来年度の方向性）

児童の見方や考え方の「時間、空間、立場」を広げるような手立てが見えにくかった。授業や単元の流れの中で時間を広げて考えたり、空間を広げて考えたりする場面を設定し、それらの成否を探ることも必要であると考ええる。

## 1 研究主題

『今』を見つめ、『未来』を切り拓く社会科学習の創造  
～基礎的・基本的内容を身に付け、自ら問いを追究する社会科学習の展開～

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究の方向性

#### ・目指す授業像

子どもの意識の流れに寄り添い「わくわく・ドキドキ」を生み出す学び。

#### ・研究の視点

①子どもの追究意欲を高めるための教材開発、②2つの「切実なる問い」、③教師の出番の在り方、④基礎的・基本的な内容（社会認識）・技能の習得とともに、観音寺小学校と連携しつつ研究を進めており、上記の4点に加えて、「時間・空間・人間の観点で育てる社会的な見方・考え方」も視点の一つとしている。

#### ◆ 子どもの意識の流れに寄り添った学習過程の創造

－ 「三層構造」, 「問題解決的な学習」を基盤として －

##### ① 子どもの追究意欲を高めるための教材の開発

##### ② 2つの「切実なる問い」

◇ 学習問題 … 子どもの素朴な問いを起点に生み出す学習問題とその成立過程

・ 疑問符(?)のある学習問題

・ 「驚き」や「困惑」等、子どもの内面の動きがある過程

◇ 予想段階 … 子ども同士の解釈のズレを基にした学習活動の展開（反応の組織化）

##### ③ 教師の出番の在り方

◇ 子どもの社会的見方・考え方を深めたり広げたりする指導の工夫

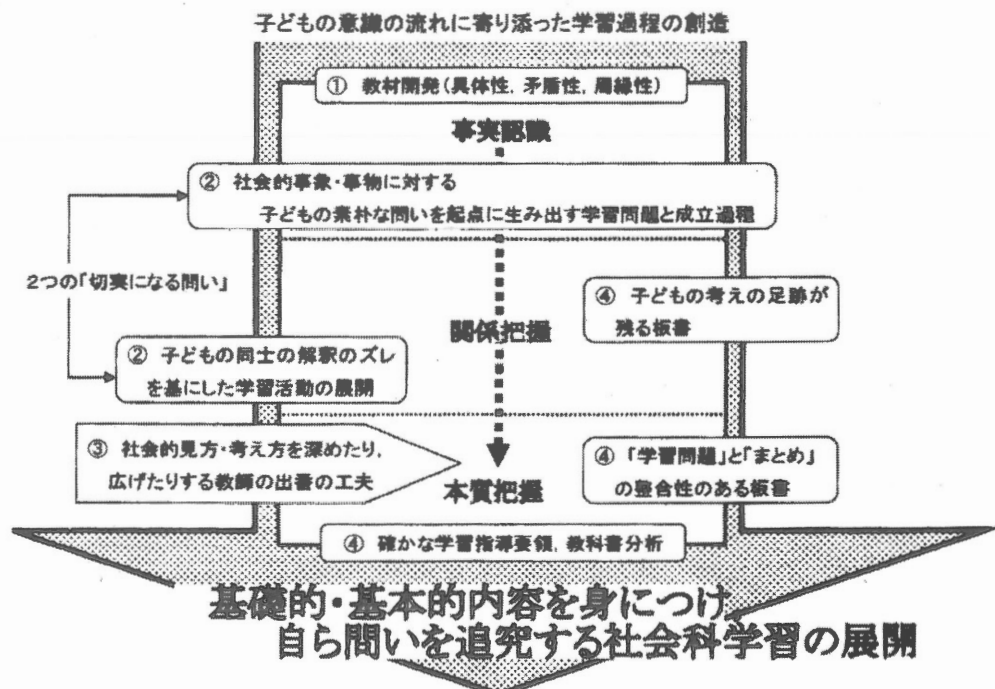
##### ④ 基礎的・基本的な内容（社会認識）・技能の習得

◇ 学習指導要領、教科書分析を基にした「単元観」の確立

◇ 子どもの「学び」を可視化した板書の構造化

・ 学習問題とまとめの整合性

・ 子どもの考えの足跡が残る板書の工夫





## (2) 研究活動

| 日 時   | 活 動            | 内 容                  |
|-------|----------------|----------------------|
| 4月17日 | 三観社研運営委員会      | 三観社研の研究・運営について       |
| 5月9日  | 三観社研総会         | 三観社研の組織・運営について       |
| 6月17日 | 三観小研部員研修会      | 授業研究「武士の世の中へ」        |
| 7月4日  | 香社研定例会三豊集会     | 実践提案「社会科授業についての実践提案」 |
| 7月27日 | 三観小研社会科部夏季研修会  | 指導案検討ならびにフィールドワーク    |
| 7月28日 | 香小研社会科部夏季研修会   | 提案発表 6年「武士の世の中へ」     |
| 1月9日  | 三観社研冬の研修会      | 提案ならびに指導案検討          |
| 2月8日  | 三観小研部員研修会      | 授業研究「自然災害を防ぐ」        |
| 2月20日 | 香社研社会科フォーラムカップ | 実践交流「水産業の盛んな地域」      |
| 2月25日 | 三観社研運営委員会      | 三観社研今年度の反省と次年度構想     |

## 3 研究実践について

### (1) 6年「武士の世の中へ」の実践より

本単元では、平清盛・源頼朝の2者と武士団の関係が変容していく様子を意識しながら授業を展開することで、子どもたちに「土地とともに生きている武士に支持されたかしらが、武士による政治を始めた」という概念を形成させる単元構成であった。

- ・歴史人物マップを使うことで、矛盾性に気付かせる教材提示の工夫ができた。子どもたちの学習意欲を高める問いをつくるための教材選定であった。
- ・「切通し」のよさを考えていく中で、「本当にそうなのか」と問い直し、新たな視点に気付かせるなど、知的好奇心を揺さぶることで追究意欲を高めた。
- ・「時間・空間・人間」の広がりの中にある事象をつないで、具体的な事実を明らかにしながら、「なぜ鎌倉なのか」を考えさせることができた。

### (2) 5年「自然災害を防ぐ」の実践より

本単元では、日本は災害が多い国であることを理解させる。対策として、災害を防ぐ取り組みをしていることをつかませる。次に、過去の事例に学ぶことで、有事における市民の協力の大切さに気付かせる。官民一体となった取り組みを学習し、お互いの関連性に気付かせることで、市民の防災意識の大切さや自助・公助の大切さを知り、災害に強い町づくりを目指すという単元構成であった。

- ・完璧と思っているハザードマップに何かを書きこんでいる写真から、この思いの「ズレ」を本質に迫る問いにつなげることで、知的好奇心を高め、追究意欲を高めた。
- ・問題解決的な学習の過程で、「時間」「空間」「人間」の3つの観点を活用することで、子ども自らが社会的事象に問いかけて情報を集めたり、事象を多面的に見て思考を深めたりできるようにした。
- ・まとめの段階で、振り返りツールを利用して本時の学びを振り返り、自分の学びを確認したり、次時への素朴な疑問につないだりした。このような学びを再構成して思考力を育てることができた。

## 4 本年度の成果

- 子どもの学習意欲を高めるための教材開発を行うために、「具体性」「矛盾性」「周縁性」の視点で丹念に調べたことで、子どもの追究意欲を高めることができた。
- 子どもの見方が広げるために「時間・空間・人間」の3つの観点を活用し、考えの根拠となるものを的確に扱いながら「話し合い」することで、社会的事象を広い視野からとらえることができた。

## 5 本年度の課題（来年度の方向性）

- 平成28年度全小社研香川大会に向けて、主体的な追究によって社会的な見方や考え方を育てる授業の在り方を考えていきたい。

# 香社研だより vol.1

## 仲善社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明  
発行日 平成 27 年 6 月 20 日

### <香社研テーマ>

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る学習

### <仲善社研テーマ>

人間の営みに学び、広い視野を育てる社会科学習の展開

6 月定例会 仲善ブロック集会

日時 平成 27 年 6 月 20 日 (土) 於：善通寺市立西部小学校

実践提案 第 5 学年 特色のある地域と人々の暮らし

「わたしたちの国土ー善通寺市ってどんな町?ー」

授業者 善通寺市立西部小学校 藤田 啓明

提案者 多度津町立四箇小学校 滝井 康隆

### 1 提案の主張点

(1) 学習の視点を共通化することで、学習時間の短縮を図り、4つの土地に共通した特色を考える。

教科書で取り上げられている土地は、低い土地、高い土地、暖かい土地、寒い土地の4つである。

本来は、この4つの中から気候と地形に特色ある地域を1つずつ選択して授業を行うものであるが、本単元では、4つの土地について「家や生活」、「農業」、「観光」の共通した3つの視点で考えることで、以下のように学習時間の短縮を図り授業を行った。

- ・低い土地の暮らし 5時間・高い土地の暮らし 1時間・暖かい土地の暮らし 4時間
- ・寒い土地の暮らし 1時間(本時)

では、4つの土地を取り上げる意義とは、何か?

それは、4つの土地を取り上げることで、特色ある土地の人々の暮らしの特色について理解するだけでなく、様々な土地の人々の生活について理解することができることである。

例えば低い土地のみや暖かい土地のみを取り上げて学習するとその土地についての知識を深めたり、工夫や努力を知ったりすることを通して、その土地の生活の特色を説明することはできても、他の土地について説明することはできない。

そこで、4つの土地を取り上げ、共通の視点で人々の工夫や努力を考えることで、「どの土地の人々もその土地の自然条件に負けない工夫をして生活している」や「どの土地の人々も自然条件を生かして生活している」ことに気づき、それを通して子どもたちは、広い視野を身につけ、日本のどの土地の人々も様々な自然条件の中で工夫しながら生活していることが理解できると考える。

また、共通の視点で4つの土地を考えることで他の土地の生活の特色と比較しながら考える事ができ、その土地の生活の特色をより明確にすることもできると考える。

## (2) 特色ある4つの地域から善通寺市の生活を考えることで日本全国の土地の特色が理解できる。

地形や気候の学習を通して子どもたちが予想できる特色ある地域は、高い土地、低い土地、暖かい土地、寒い土地の4つである。これら4つの土地の学習だけでは、子どもたちの日本の土地に対する意識は、日本全国は、特色ある土地だけであるという意識になると考える。しかし、日本の大多数の人々は、沖縄や海津市などの特色ある土地と比べると気候や地形の特色を読み取りにくい場所（中間的な場所）に住んでおり、暮らしの特色も読み取りにくい。日本全国の土地の様子を理解させる為には、子どもたちにこの中間的な場所への意識を持たせる事が必要であると考え。

そのために、単元の総まとめとして、自分たちが住んでいる善通寺市について考え、善通寺市がこれまで学習してきた4つのどの土地にも当てはまらない中間的な場所であることに気づかせることで、日本全国には、高い土地や低い土地、暖かい土地や寒い土地だけでなく中間的な土地もたくさんあり、そこに住んでいる人々も自然条件を生かして生活していることに気づかせていった。

## 2 討議内容

- 4つの特色ある土地に住む人々の生活を比較しながら考える事で、日本全国の人々の暮らしの特色を理解させることができた。
- 4つの土地を調べ、そこに善通寺市も加えて考えることによって、児童に日本には、特徴的な地形や気候に住んでいる人々だけでなく、中間的な場所に住んでいる人々もたくさんいることに気づかせることができた。
- 授業で取り扱った地域だけでなく、自分が住んでいる地域について説明することができる力を身につけさせることができたことは、社会認識を深めさせる授業となったのではないかな。
- ジグソー学習を通して1人1人が責任を持って自分の担当を調べる活動に取り組めたものの、用語を分類し、調べることは出来ても、用語の意味まで理解できていたか疑問が残る。
- 調べた視点のまとめから人々の生活の特色を考えたが、具体を比較し、つなぎ、説明する方がより理解を高められたのではないかな？
- まとめが、どの地域でも同一になってしまっていた。その時間にだされた児童の言葉でまとめて行く方がより理解しやすくなるのではないかな？

## 3 ご指導

まんのう町教育委員会 学校教育課 主任指導主事 佐柳 仁先生

- ・ 本実践では、ジグソー学習を行っていたが、メリットとデメリットを教師が自覚し、効果的に活用する必要がある。本時では、用語は沢山調べられていたが、具体が少なくなりがちであった。資料の見方を伝えながら授業を進めていくことでより児童の思考を深められると考えられる。
- ・ 家や生活、農業、観光の3つの観点で調べ、特徴をまとめていたが、他の方法として、自然環境に負けない工夫と生かす工夫に分けて調べ、その背景を探ることで、人間の営みに学ぶ学習へとつながるような展開も可能であったと考えられる。

### 【編集後記】(香社研事務局)

週休2日になり、長らく行われていなかった定例会での公開授業。善通寺市の土曜授業日を活用しての新たな取り組みであった。やはり、実際に授業を参観しての討議には、参加者の熱が込められていて、とてもよかった。今後もできるだけ授業参観ができる機会を作っていきたい。

# 香社研だより vol.2

## 三観社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明  
発行日 平成 27 年 7 月 4 日

### <香社研テーマ>

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る学習

### <三観社研テーマ>

#### 『今』を見つめ、『未来』を切り拓く社会科学習の創造

— 基礎的・基本的内容を身に付け、自ら問いを追究する社会科学習の展開 —

7月定例会三観集会

日時 平成 27 年 7 月 4 日 (土) 於: マリンウェーブ

実践提案 「社会科授業についての実践提案」

提案者 観音寺市立常磐小学校 教諭 合田 雅気 先生

### 1 提案の主張点

#### (1) 目指す授業像

社創研発足当時から求めて止まない授業は、子どもたちが目を輝かせ、生き生きと社会科学習に取り組む姿が見られる授業である。その中で常に大切にしてきたものが、子どもたちの学習意欲である。

この目指すべき授業像の根底にある問題意識は、子どもたちの学習への主体性を願い、学習意欲(追究意欲)をいかに喚起させるかということである。

#### (2) 研究の視点

##### ◆ 子どもの意識の流れに寄り添った学習過程の創造

— 「三層構造」, 「問題解決的な学習」を基盤として —

① 子どもの追究意欲を高めるための教材の開発

② 2つの「切実になる問い」

◇ 学習問題…子どもの素朴な問いを起点に生み出す学習問題とその成立過程

・ 疑問符(?)のある学習問題

・ 「驚き」や「困惑」等, 子どもの内面の動きがある過程

◇ 予想段階…子ども同士の解釈のズレを基にした学習活動の展開(反応の組織化)

③ 教師の出番の在り方

◇ 子どもの社会的見方・考え方を深めたり広げたりする指導の工夫

④ 基礎的・基本的な内容(社会認識)・技能の習得

◇ 学習指導要領, 教科書分析を基にした「単元観」の確立

◇ 子どもの「学び」を可視化した板書の構造化

・ 学習問題とまとめの整合性

・ 子どもの考えの足跡が残る板書の工夫

### (3) 本時の概要

#### ① 目標

火消し壺の機能を考えることによって、昔の人の道具に込められた智慧や工夫に気づき、昔の道具について調べる意欲をもつ。

#### ② 学習活動の概要

1 消し炭を観察し、学習問題をつくる。

どうして使った炭を壺に入れておくのだろう。

2 使った炭を壺に入れるわけを話し合う。

3 消し炭の良さについて考える。

4 火消し壺の良さについてまとめる。

- ・ 火消し壺は、燃料再生工場みたいだなあ。
- ・ 昔の人はものを工夫して大切にしていたんだなあ。

## 2 討議内容

○ 具体性・矛盾性・周縁性とは何か

→ 社会事象の中の周縁部に位置づけられたもの

○ 提案資料にあるモデル図は、授業のつながりが分かりやすい。

○ 単元構成について、次時ではどのような学習をしたのか。

→ イエロー隊等、地域の方に他の道具について聞いたり、民俗資料館の体験の振り返りをしたりした。

○ 香社研、三観社研のつながりが分かりやすい。

○ 本時では七輪に消し炭を入れて、新聞紙を使って火を点けた。しかし、現実には松葉を使っており、松葉を通して昔の人々の暮らしが分かる。実践では、暮らしの智慧（消し炭）は分かるが、果たして暮らしの様子までは理解することができたのか。子どもが燃料として松葉を拾い、母親が料理をする食事は家族総出の行事であるという昔の食事づくりまで芋づる式に行けたのではないか。

→ 香社研は、社会参画の資質・能力を養おうとしている。これには子どもたちの意欲づくりが大切だと考える。また、社会科の魅力づくりを考えている。これらは、三観の論とマッチするところだ。授業については、意見の通りだと思う。

○ なぜ火消し壺で盛り上がるのか。

→ 子どもたちの意識を想定している。実物を出すことが意欲づけになる。

○ 本時の中で三層構造の事実認識、関係把握、本質把握はどこになるのか。

→ 事実認識は、火消し壺というものがあり、中には消し炭が入っていること、関係把握は、経験とつないで予想したところ、本質把握は教師の出番後の認識である。



# 香社研だより vol.3

## 小豆社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明  
発行日 平成 27 年 10 月 24 日

### <香社研テーマ>

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る学習

### <小豆社研テーマ>

「社会認識を深め、社会に関わる力を育てる学習」

10 月定例会 小豆、さ・東ブロック集会

日時 平成 27 年 10 月 3 日 (土) 於: 香川大学教育学部附属高松小学校 恵心館

実践提案 第 5 学年 情報化した社会とわたしたちの生活

提案者 土庄町立土庄小学校 教諭 平林 泰徳先生

(実践者 小豆島町立苗羽小学校 教諭 白川 麻里先生: 26 年度)

### 1 提案の主張点

- (1) 身近な話題を取り上げたり KJ 法を用いて思考を可視化したりすることなどで主体的な学習を展開することにより、社会認識を深められるであろう。
- (2) 学習したことをもとにしてつくった情報活用宣言を家族に発信することで、社会に関わる力を育てることができるであろう。

#### (1) について

#### ① 児童にとって身近な話題を取り上げることで、学習意欲を高める。

通信機能を有する携帯ゲーム機を日常的に利用している児童には、地上放送のデジタル化による双方向での情報送信の内容は、取り組みと理解が行いやすかった。

#### ② 情報社会の光と影の両側面から考える。

K-MIX や電子カルテ、99 さがネットなど、県内でも広がりを見せる医療分野での情報ネットワークにより、過疎地域でも大病院と同じような医療が受けられることに、児童は驚いていた。影の部分に関しては、ネットワーク利用に関するトラブルや過度の利用による悪影響など、児童の身近に起きうる問題から数点取り上げて調べ、4 コマ漫画にまとめた。

#### ③ KJ 法を活用し、思考の流れを可視化する。

各自が調べた情報活用の影の部分を、知識として学ぶだけでなく、KJ 法によって思考の流れを可視化して友だちと意見を交わしながら分類していくことで、自分自身の課題として主体的に解決することができるのではないかと考えた。

まず、1 つの事例における功罪両面を色分けして付箋に書き出すようにした。児童は、思ったことを次々と書き留めていった。次に、グループで意見を出し合って、分類して各自の考えを共有しながら見出しを付けた。自分の意見が話し合いの場で受け入れられたり、友だちの意見で考えが深まったりしていくことで、練り合う学習活動の 1 つとすることができた。そして、各グループの考えをもとに、学級全体の中で交流し「情報を活用するときに必要なこと」をまとめた。

#### ④ 外部講師によるネットトラブルの話

小豆県民センター消費生活相談員をゲストティーチャーに招いて、小中学生が事件や犯罪に巻き込まれてしまった事例を紹介してもらった。児童は、情報の影の部分が高人事ではなく自分自身のこととして実感できるようになった。

#### (2) について

これまでの学習をもとに、情報化社会に生きる自分たちが、今後どのようにメディアや情報と関わっていくことが大切なのかをまとめる活動として情報活用宣言をつくった。児童が宣言したい内容を黒板に書き出し、整理した。その中から最も自分が宣言したい部分を第1条から順番に書いていくようにした。つくった情報活用宣言は、各自の家族に向けて宣言するようにした。保護者側からの声かけも容易かつ効果的になって、ゲームの使用時間を大幅に減らすことができるようになった。

#### 2 討議内容

- Q. 個人による情報活用場面以外にも光と影の両面があるが、第3次の情報ネットワークの学習で情報活用の光の側面のみ取り上げているのはなぜか。
- A. 情報活用の光と影への認識が段階を踏んで深められるように、第3次では光の側面を第4次で影の側面を扱うようにした。
- ・ 情報活用宣言に記述する事柄に、情報端末の利用時間の制限を中心にして、道徳で取り扱う情報の内容が色濃く出てきている。社会科で学習する情報活用の在り方に重点を置いて、活用宣言を考えるべきではないか。

#### 3 ご指導

##### 土庄町教育委員会主任指導主事 役重 和雅先生

- ・ 21世紀型能力：新指導要領に基づく教育課程で求められる、課題解決を支える資質・能力  
→「基礎力」を核に、「思考力」そして「実践力」が、層を作るように広がるもの。これらの力の育成は、今世紀を生き抜く力を持つ市民の育成に不可欠である。
- ・ 社会科の中における21世紀型能力では、「世の中について何を知っているか」ということもさることながら、世の中に対して何ができるかを意識・実践できることが重要である。「実践力」の育成を目指すには、実践後に子どもの変容している姿をイメージして学習を構築しなければならない。
- ・ 小豆社研、さ東社研のテーマにある「社会認識を深める」「思考力の育成」は、それぞれが21世紀型能力の基礎力と思考力を培うことにつながっている。既習事項の活用を含む課題解決型学習を展開することが、各テーマに迫る手立ての一つに考えられる。

##### 東かがわ市こども総合支援センター所長 佐藤 正文先生

- ・ なじみ深いさ東・小豆両社研の実践提案、そして次代を担う若い先生方の活発な討議が喜ばしい。
- ・ 子どもにみられる「くせ」は個性の組み合わせ。出ているところを打つのでなく、しっかりと受け止めることで先につながる指導の方向が見えてくる。

##### 【編集後記】(香社研事務局)

社会参画につないでいく部分として「情報活用宣言」がありました。学校だけでなく、地域や家庭、専門家とのつながりを意識した実践でした。定例研の場において、実際に授業で登場した専門家の方に来ていただき追体験をしてもらう試みも示唆に富むものでした。

# 香社研だより vol.4

## さ・東社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明  
発行日 平成 27 年 10 月 24 日

### <香社研テーマ>

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る学習

### <さ・東社研テーマ>

思考力の育成をめざした学習プランの開発  
～子どもの問いをつくり 深め 広げる～

10 月定例会 さ・東ブロック集会

日時 平成 27 年 10 月 3 日 (土) 於: 香川大学教育学部附属高松小学校 恵心館

実践提案 第 4 学年 特色のある地域と人々の暮らし

「和三盆糖をつくる 古い街並みを保存するまち」東かがわ市「引田」

提案者 さぬき市立志度小学校 教諭 岩澤 直也先生

#### 1 提案の主張点

##### (1) さぬき・東かがわ社研の取り組み

思考力(思考・判断・表現)の育成は、すべての教科で重要視されているが、すべての教科で課題になっている。「感性や情緒を育み、人間関係が豊かなものとなるよう、体験したこと や事象との関わり、人間関係、所属する文化の中で感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること」という言語活動や「学ぶ側が自ら課題発見から解決、成果表現まで取り組むことで論理的思考や学びに対する主体性を身に付けさせる」**アクティブ・ラーニングは、社会科でつけたい力や学習方法そのものである。**

学ぶ側から、つまり子どもが課題発見をすることが重要であり、さぬき・東かがわ社研では、サブテーマを「**問いをつくり・深め・広げる**」と設定した。問い＝学習問題、学習課題など狭義、定義はいろいろあるが、ここでは、**これらも含めて「問い」としている。**

今回は**子供の問いが生まれる教材開発**という点を中心に提案する。また、**若手教員のスキルアップ**ということでの**教材の分析・検討、教材化の提案**である。

県内の特色があり、子どもたちが意欲的に学習に取り組む教材はないか、常に探している。**今日紹介した教材単元は、来年の夏季研究会で実践報告をしたい。**

##### (2) 実践

###### <学習指導要領より>

「特色ある地域」としては、伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域のほか、例えば、溪谷や森林、高原や湿原、河川や海辺などの豊かな自然を守りながら、あるいは、歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域が考えられる。また、地域の伝統や文化を生かしたまちづくりに取り組んでいる地域や伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域については、見学や調査などの体験的な活動を取り入れることも有効である。

###### <要素＝教材としての価値>

- ①材料となるサトウキビは**地域の農家と契約栽培**により調達している。
- ②**200年以上の伝統**がある。
- ③古来の製法を忠実に**守り伝えようと職人さんたちの努力**が見られる。
- ④季節や年中行事に合わせた、見た目も美しい和三盆糖として**広く販売**されている。

↓このことを調べるための資料として…

### ○ 教材化するためには資料、子どもの学習意欲を高め、調べやすい資料が必要

→実物＝入手可能。ネット販売も有。いろいろな商品は県内のお土産を扱っている所にたくさんある。

→写真＝入手可能

原料のサトウキビ畑は東かがわ市に行けば、所々に見られる。

事前に連絡すれば、作業の様子も見ることが出来る。だんだん白くしていく。子どもにとっては、興味がわくものである。

### ○ 子どもの「問い」ができるか（さぬき・東かがわ社研が重要視している点）

→ 子どもが、不思議に思ったり、調べてみたいと思ったりする活動を大切にしたい。

→ 食べ比べ活動…子どもの意欲化

※和三盆糖と白下糖を食べ比べることで、学習問題をつくる。

### ○ 問いに対する答えを導き出すしかけ

東かがわ市の副読本でも、児童の疑問に答えられるように作られている。

このことを体験や見学も取り入れられる所を扱い、地域の副読本や香川県の資料やインターネットも活用して香川県の事例で学習するための教材である。

引田地区には、和三盆糖以外にも、古い街並みがある。これらを取り入れて、県の様子の学習を進めていきたい。思考・判断・表現力を高めるために、どのような表現物を作るのかも工夫していきたい。

金丸座や丸亀のうしろなど県内に教材はいろいろある。

他の都市の教材も積極的に取り入れていきたい。引田の事例もぜひ使っていただきたい。

## 2 討議内容

Q ゲストティーチャーは、考えていないか。

A 引田の三谷製糖を訪問すれば、東かがわ市の副読本に載っている方が、説明して下さる。

Q 新たな問いは、どのように広げられた問いと考えているのか。

A 今回は、教材の分析・検討、教材化の提案である。

A 今、香社研で取り組んでいるのは、3層のピラミッド型の学びである。第1段階は、第一次の学びであり、問いを作る過程である。第2段階は、第二次、第三次の学びである。第3段階は、第四次の学びであり、どう関わるかが重要になる。問いを作る過程である。第2段階と3段階において、「調べ」、「考え」、「まとめる」活動を行い、社会認識を深めていくことになる。その後、社会参画につなげていく、「広げる」、「関わる」ことが大切になる。

さぬき・東かがわ社研の提案は、第一次の学びの提案であり、社会参画として、新聞づくりや宣言等が考えられる。

## 3 ご指導

### 土庄町教育委員会主任指導主事 役重 和雅先生

社会科や人権・同和教育の学習では、「サンタクロース」が大切。3つの「た」が×ということ。一つは、他人ごとは×。二つ目は、建前は×。三つ目は、縦じわは×(楽しく学習すること)。

第2次教育振興計画で求められているものは、「自立、協働、創造に向けた一人一人の主体的な学び」である。21世紀型能力の資質能力は、「基礎力」、「思考力」、「実践力」の三層構造になっている。思考力を高める段階では、社会認識を深めていく必要があり、実践力を高める段階では、社会に関わる力を育成する必要がある。21世紀型能力を身に付けさせるには、課題解決型学習やアクティブ・ラーニングといった学び方が大切になる。課題意識をもち既習事項を生かすことで、主体的な学びとなる。子どもたちに21世紀型能力を身に付けさせることで、21世紀を生き抜く力をもった市民に育てていかなければならない。そのためには、「世の中についてなにを知っているのか。」から、「世の中に対して何ができるのか。」という学びが必要。子どもの姿をイメージし、ピフォー・アフターが大切。

### 【編集後記】(香社研事務局)

子供の問いが生まれる教材開発という視点での提案でした。若手教員のスキルアップということでの教材の分析・検討、教材化を若い先生が取り組み、新たな息吹を感じる事ができました。

県内の地域資源を掘り出す教材開発への意欲も見られ、今後の活躍が楽しみです。

# 香社研だより vol.5



香社研HP

## 高松社研

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明  
発行日 平成 27 年 11 月 7 日

### <香社研テーマ>

自ら社会に参画する資質・能力を高め、社会科の魅力を創る学習

### <高松社研テーマ>

『社会参画につなぐ資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育』

～社会科の目標、資質・能力、内容の研究を深め、  
特に「授業評価演習」形式による高松市社研の研究体制の確立を図る～

10 月定例会 高松ブロック集会

日時 平成 27 年 10 月 24 日 於：高松市ふれあい福祉センター勝賀

実践提案 第 3 学年 わたしたちのまち みんなのまち「ここがおすすめ！木太北部！」

提案者 高松市立十河小学校 教諭 真鍋 長嗣

高松市立鬼無小学校 教諭 中村 祥子

授業者 高松市立木太北部小学校 教諭 中山 三千雄

### 1. 高松社研の主張点

これまでの積み重ねを大切にしながら、研究を進めている。今年度より、新たに加え、改善した内容について 2 点述べる。

#### (1) 深まった課題の設定

単元構成をつくり上げていくには、教科書内容を分析し、地域教材も取り入れた「資質・能力、内容・教材の構造」をもとにして、次の 3 つのどの段階で指導していくかを考える。3 つの段階とは、「(ア) 問題を持ち・見通しを持つ段階」、「(イ) 調べ・考え・表現し、まとめる段階」、「(ウ) つなぐ段階」である。

子どもたちは、(ア) の段階で課題を持ち、学習を進めていく。しかし、(イ) の段階で、子どもたちの課題は変わっていく。それは、学習内容から子どもたちの意識が焦点化されるためである。そのため、(イ) の段階で、最初の課題を修正、変更したりして、子どもたちの実態に合った課題に変えていく。これを「深まった課題」を呼ぶことにした。

#### (2) 評価演習

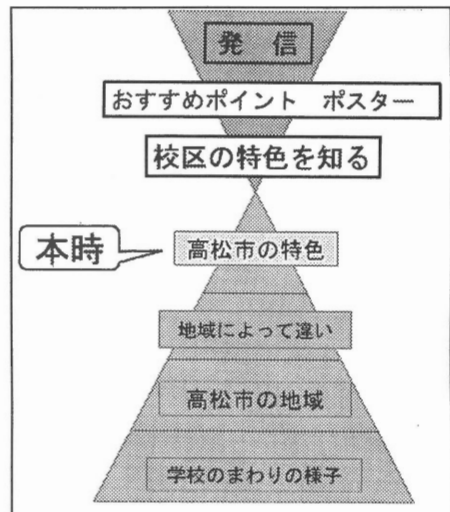
全国大会における授業分科会の協議の在り方も合わせて研究している。討議会場に「目標」、「学習活動」、「評価」を抜きだした拡大表を黒板に貼っておく。授業参観後に、「赤シール（おおむね満足に思う）」と「青シール（おおむね満足に思う）」を各々が表に貼り、討議を行う。若年教師が先輩教師との意見の一致を感じ、意見を言いやすくなることが利点である。また、「演習委員」を設け、委員が率先して討議に参加し、代案を示したり、授業者に意見を求めたりしながら討議の活性化を図る。



## 2. 実践報告

### (1) 自分の校区にも特色があることを知る

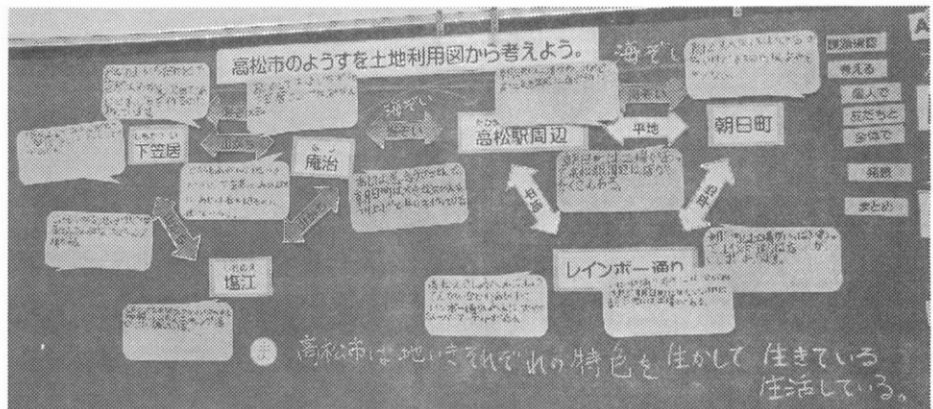
校区のまわりの絵地図から土地利用図に移行したとき、ほとんどが住居、お店を表すピンク色になってしまったが、子どもたちはそれが生活に便利か不便かも感じず、何の反応もしなかった実態があった。そこで、校区の特色を知るために、学校のまわりの様子を学習した後、高松の特色ある地域を調べ、地域によって違いがあることを知り、そこから見えてきた高松市の特色を考えることにした。その上で改めて校区の特色を考え、おすすめポイントをポスターにする学習課題を作った。作ったポスターは、コミュニティセンターに貼り、発信していくことにした。



### (2) 思考の過程が分かる板書の工夫

出来上がった土地利用図をみて、高松市の中に、土地の様子が似ている地域を探した。「下笠居と庵治は、山がちというところが似ている。他にも土地の様子が似ている地域はないか。」と話題をふり、土地利用図からペアリングさせていった。すると、「平地」「海沿い」という言葉が出てきて、それらの自然条件を矢印でつなぐことで、地図上では離れている地域でも、土地の様子でみると近い関係であることが板書により明確になった。

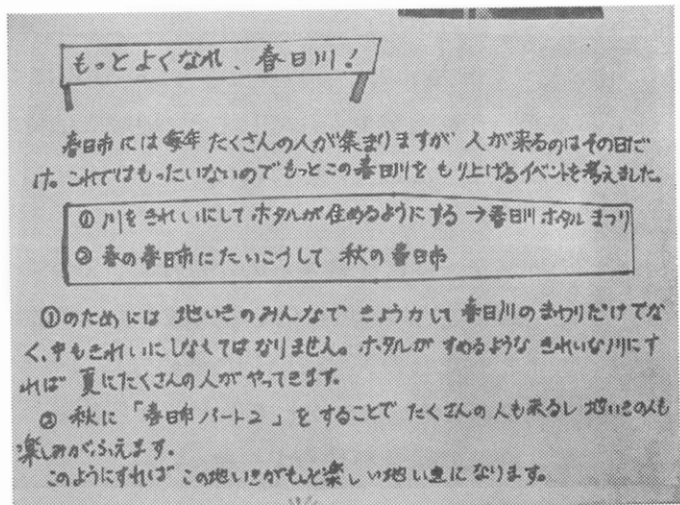
さらに、土地の利用のされ方について、わかったことや気づいたことを吹き出しに子どもたちが書き込んで黒板に貼った。黒板を見ると、どの地域にも特色があり、それを生かしていることが分かるようになった。



### (3) 社会参画へのつながり

高松市の特色を知った後、再び校区の特色について考えた。木太北部小校区の特色は何なのだろうか、と問題を提示すると、高松市を調べたことにより、特色が概念化され、校区だけを調べた時よりも多くの意見が出た。

ポスターには、その意見につながるような、高松市のおすすめ地域も一緒に書かれ、改めて高松市の特色を見直すことになった。また、「こんな地域になって欲しい。そのためにこんなものがあって欲しい。」といった、地域に住む子どもながらの思いや計画を書くようにした。このことから、社会参画への意識を持って学習に参加していたといえる。



### 3. 質問

Q: 子どもたちが木太北部コミュニティセンターに掲示したいと思うように、教師はどのように仕掛けたのか。

A: 「ポスターを作るだけならもったいないね。」と言うと、「店に貼りたい。」と言った子どもがいた。しかし、店は貼らせてもらえるだろうかという子どもたちの不安もあった。そこから、「学校の近くのコミュニティセンターなら貼らせてもらえるだろう。」「木太北部の人に知らせたとしても地域の人は特色を知っているため、掲示しても意味がないのではないか。」「木太北部校区をどう良くしていくのかということのかくと校区のコミュニティセンターに掲示しても地域の人は読んでくれるのではないか。」と話し合いが発展した。子どもから課題が生まれ、発信方法が定まっていっていった。

Q: どのように深まった課題が出たのか。

A: これまでの学習で作ってきた特色ある地域の土地利用図を掲示していくと、子どもたちが自発的に比較し、特色に気づいていった。そこで、課題を取り上げた。

Q: 「よくなる」というのはどういう意味か。

A: 「住みたいまちになる」ということ。

例) ・ロッククライミング場があるが、一部の人しか利用できないため、そばに体を動かす場所を作ればよい。

・河川敷にたくさんの人が遊べる巨大迷路（遊具）を作ればよい。

### 4. 討議

#### 【単元全体】

○ 校区から市へ、市から校区へという単元構成。地域の未来を考える意識を生むことに適した構成である。

○ 校区と高松の地域の特色を関連付けながら考えることによって、相互の特色を深く知ることができる。点（特色ある地域）をつないで面（高松市）をとらえることができる。

○ 深まった課題を子どもたちが共有し、地域をもっとよくする案を考えることによって、自分の地域を大切にしたい、社会参画していきたいという思いをもつことができる。

○ 校区のおすすめポイントに、店の多さや交通の利便性に目を向けてまとめることができている。

○ 店、石を使った仕事などがあることを取り扱い、次の単元につながりを意識できている。

● この単元構成の注意点は、高松市の理解が薄れる可能性があることである。

● 土地の様子を知るためには、人々の生活に焦点を当てる必要があった。校区の人、人と人とのつながりといった視点を生むことで、子どもたちに誇りや愛情が生まれるのではないか。

● 「住みやすい地域」という表現はどうか。住みにくい地域もあるという意識が生まれてしまう。地域には特色があることを認識できたらいよいのではないか。

#### 【板書】

○ 6つの地域を一度に比較するのではなく、2つずつペアリングしていくことで、焦点化して地域を見つめることができる。子どもたちの実態に応じた進め方になっている。

○ 矢印で自然条件を、吹き出しで子どもたちの気づきを表すことで、地域の様子が見やすくなった。



- 板書には、地図や写真を入れてイメージを高めた方がよかったのではないかな。
- 子どもの気づきを先に示し、そこから自然条件を考える流れも可能だった。

#### 【授業評価演習】

- 討議の仕方に目を向けたことが素晴らしい。若年教師が意見を言いやすくなったり、授業の成果と課題が可視化できたりするのは、討議を活発にするうえで効果的である。
- 何のシールも貼られなかった空欄箇所にも課題を検討する余地があるのではないかな。

### 5. ご指導

高松市教育委員会学校教育課指導主事 小柳 良二先生

#### (1) 授業

自分事として、地域を捉えるようにする。子どもに見通しを持たせる、「〇〇をしたい!」という意識を最初の段階で持つことができていた。土地利用の比較では、気候、道路、建物などいろいろな視点がある。1つの視点に焦点化して比較してもよかった。

#### (2) 香社研、高松社研のテーマ「社会参画に向けて」

大人になってから、世界的な事象も自分事として捉えられるように。世界的なニュースについて分からないことがあれば、調べたり、自分の知識とつないだりしながら理解しようとする人間を育成してほしい。その時だけの社会参画ではなく、持続可能な社会づくりを意識した学習を進めていく。

#### (3) 高松市のようす(地理的な見方から)

子どもたちは、高松市の形をかくことができるのか。スケールを意識しているのか。学校の周り500mの距離にあるものを子どもたちが言えるか。その活動により、空間認識力を身に着けることができる。

#### (4) 全国大会に向けて

香社研、高松社研が提案する新たな社会科用語について、定義を明らかにし、初めて来られる方にも正しく理解できるようにしたい。また、現存する社会科用語も正しく使うことができてほしい。

高松市総合教育センター指導員 池田 孝徳先生

#### (1) 地理的学習の内容と方法

地理的認識は、幼稚園から小・中学年へ「地域意識の芽生え」から小学校1・2年生「地域意識」、3・4年「地域認識」、5・6年・中学校で「国土意識」「国際理解」へと深まっていく。「位置」「広がり」「状態」といった分布を意識して指導する。分布の原因を社会的条件と自然条件の両面から見る事ができているか。

#### (2) 3年生の学習内容

3年生で地図の見方をきっちりと指導し、次の学年につなげていく。生活科で校区探検をする場合、地図ではなく、発砲スチロールで学校のモデルを具体化する。立体物でないとイメージできないためである。大人の感覚で教材を用意せず、子どもの実態に応じて教材作成したい。

自分の住んでいる市と近隣の市との結びつきに気づけているか。自分たちの住む市や町の地形や集落の分布、土地利用、交通、生産活動の特色を明らかにすることが3年生の学習である。また市の学習を充実させるためには、子どもたちの経験の想起や、地図や地図模型、写真等の資料の活用を行うようにしたい。

#### 【編集後記】(香社研事務局)

全国大会に向けて、高松市社研として、どのように研究を行っているのか実践事例を手掛かりに示していただきました。若手と先輩の先生方のグループ交流の姿が、今後の香川の社会科の伝統をつないでいく姿に見え、頼もしく感じました。指導の小柳良二先生・池田孝徳先生ありがとうございました。

# 香社研だより vol.6

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 柴田 英明

## 香社研テーマ

自ら社会に参画する資質・能力を高め、  
社会科の魅力を創る教育

## 丸社研テーマ

自立と共生を育む社会科学習

11月定例会 丸亀集会 平成27年11月7日(土) 於:岡田コミュニティセンター  
＜実践提案＞ 丸亀市立城坤小学校 秋山 侑大 先生  
6年「武士の世の中へ」 元寇

### 1 主張点

- (1) 単元を貫く課題の設定
- (2) 意思決定する場の設定
- (3) 社会認識を深めるための工夫

### 2 本単元での取組

#### (1) 単元を貫く課題の設定

児童は、様々なメディアを通じ武士について知っていることは多いが、イメージが先行している。武士の世の中を理解するためには、武士がどのような人たちであり、どうして戦っているのか、何を大切にしているのかなどについて考えていかなければならない。

丸亀には婆娑羅祭りがあるが、もともと派手な格好をしていた武士を婆娑羅と呼んでいたことから賑わいのある街になることを期待して名付けられた。児童は、自分がもっているイメージと違うことから、武士についての学習に意欲を見せた。そこで、「武士はどんな世の中をつくりたかったのかを調べ、武士の世の中新聞をつくろう」という課題を作った。

#### (2) 意思決定する場の設定

意思決定する際には、情報の分析、自分の考えをもつ、判断をするという思考が必要になる。そうした過程を通じることにより、状況を踏まえた選択ができる力を養うことができるようになって考えている。本単元では、単元を通して武士の立場で「自分が武士ならどうするか」と考えさせることにより、武士と土地の関係をつかませていきたいと考えた。意思決定を通じて、源平の合戦では、領地を多く認めてくれた源頼朝に多くの武士が味方したことを学習し、承久の乱では、ご恩と奉公の関係により武士たちは結束し、朝廷に勝つことができたことを学ぶ。元寇では、領地のために戦った武士たちに十分な領地を与えることができなかったことがきっかけで、幕府と武士たちの関係が崩れていったことを学習した。そして、それが鎌倉幕府の力が衰えた原因の一つとなったことをつかませていった。

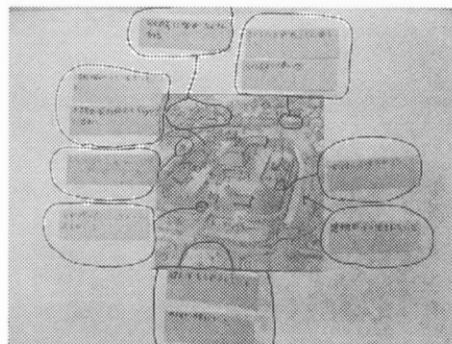
#### (3) 社会認識を深めるための資料の読み取り・ロールプレイ

武士の暮らしの様子や元寇において付箋紙を使った資料の読み取りを行った。赤い付箋紙には、自分が資料をみて思ったことや感想、青い付箋紙には資料から読み取れる事実を書き込んでい



た。互いに資料から読み取ったことを交流することにより、正確に読み取ったり、考えが広がったりした。この活動により自分の気づきが友達との共有財産になり、活動意欲を高めることにつながった。また、意思決定した内容をロールプレイで表現する活動を行った。児童は武士の立場で意思決定したことを伝え、教師は、平清盛や源頼朝、北条氏や恩賞奉行といった役を演じた。

ここで、実際にどのようなロールプレイをしたのかをみなさんに見ていただいた。



### 3 討議内容

#### (1) 身近な地域教材からの課題の設定

- ・「世の中新聞をつくろう」は、単元を貫く問いであったのか。
- ・娑婆羅祭りや佐々木導誉のギャップから単元に入ったことは身近でない歴史を身近にする手立てとしてよい。もう少し追究してもよかった。また、丸亀城や京極のことにもつなげていくと深まるのではないか。佐々木導誉を単元のどこで扱うかを再考する。

#### (2) 意思決定・ロールプレイについて

- ・意思決定は有効なのか。それより、過去の人々の意思決定を知り、今の生活に生かすことが大切ではないのだろうか。正解のない答えを求めていくことはすばらしい。しかし、歴史で正解のないことを求めるのは難しい。
- ・竹崎に視点を当てていたが、北条の存在が大切なのではないか。
- ・ロールプレイは社会認識を深めた上で、したほうがよかった。
- ・意思決定・ロールプレイの頻度はもう少し少なくてもよい。

#### (3) 資料の読み取りについて

- ・年表を見せて、見通しを持たせた方がよかった。

### 4 ご指導 山内 秀則 先生

- ・香社研の伝統である「人を切るのではなく、論を切る」思ったことを言い合える雰囲気がよい。
- ・論に実践を当てはめていることはよい。やってみてうまくいかなかったものについては、外していくことで改善を図る。
- ・意思決定やロールプレイは、確かなものにするために半わかりの状態でもやることも考えられる。
- ・課題なのか問題なのかを教師ははっきりさせておくべきである。
- ・思考の変容を読み取るべきなので、新聞1回では、評価しにくい。

#### 松下 繁美 先生（香社研OB）

- ・地元、地域を知る必要がある。地域にはいろいろな歴史がある。昔を語り継ぐなどいろんな形で発信して残さなければならない。（例えば、「藤川三溪」は、日本の水産学校を初めて作った人である。飯山や端岡、屋島などに現存しているまっすぐな道路は、昔戦争で使うための軽易飛行場として造られたものである。）
- ・社会科で学んだことなどを発信する形として、学校便りを発行するのもいいが、OBになるとなかなか知ることができない。実践を広めるためにはHPを充実させるのも一つの方法である。



## 社会科改訂への模索

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 澤井 陽介

### 1 育成すべき資質・能力を育む観点からの 学習計画の充実

検討の順番は、

①何ができるようになるか

②何を学ぶのか

③どのように学ぶのか

と考えている。

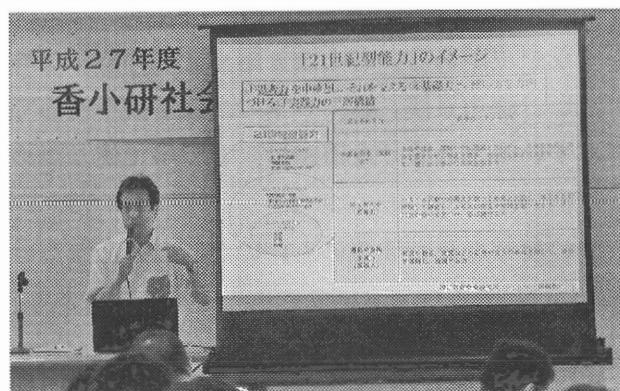
今、学習指導要領の骨格部分を考えているところ。これをするには、これまでの学習指導要領の変遷を紐解く必要があるということ。中学校の教科調査と共同でやっている。

人材を育てると言った時に、これからは高等学校の内容は避けて通れない。だから、まず高等学校の改革、そして中学校、小学校の順。特に高校は社会科とは言わないが、新しい科目ができる動きにある。課題解決的な学習の充実をする動きにある。つまり、アクティブラーニングのこと。小学校ではすでにアクティブラーニングをしていると言える。

諸外国では、資質・能力を基軸にしてカリキュラムをつくっているが、日本は内容を基軸にしている。今ある基軸に、諸外国のよさをかぶせていないかと模索しているところである。

### 2 「21世紀型能力」のイメージ

学力の三要素を中心としている。一番大切にしたのは、思考力・判断力・表現力のところ。それは、「一人一人が自分の考えを持って他者と対話し、考えを比較吟味して統合し、よりよい答えや知識を造り出す力、さらに次の問いを見つけ、学び続ける力」である。



子どもが自分の文脈で、自分のことばで子どもや大人と直接対話をするということ。子どもがより実行力のある子どもにしなければいけない。そうやって、人格の完成を目指していく。

今回の改定は高校が中心だが、企画特別部会で個別の知識や技能とは、教科等の本質に根差した見方や考え方等、情意・態度等に関わるものをそれぞれ個別に見いだしている。これを小・中につなげていこうとするものである。今はばらばらだが、それをそろえていく。

だから、小学校では、

① 何が分かっているか

② 何ができるか

③ 何ができるようになる内面が育つか

(行動まではいかない)

ということである。

### 3 高等学校教育を通じて身に付ける資質・能力 についての基本的な考え方

学校教育法第30条に基づいて考えられている。この中に、思考力・判断力・表現力に関わる部分が書かれている。「説明する力、議論する力、批判的、合理的に考える力、『想像力、構想力』を軸にして、何を考えさせるのか、判断させるのか、表現させるのか、そして、どのように考えさせるのか、判断させるのか、表現させるのかを小・中・高でつないでいく。それは例えば、評価する力→説明する力、議論する力→考察する力、構想する力 である。

小学校では、

① 何を

社会的事象の特色や相互の関連を  
社会的事象の意味、意義を  
社会に見られる課題や問題を  
社会に見られる課題や問題の解決策を

② どのように

多面的・多角的に  
論理的に  
客観的・批判的に  
主体的・協働的に …

ということである。

小学校では自己満足、自己解決してしまっているとも言えるので、これを高校までつないでいこうということである。

#### 4 教科の本質に根差した見方や考え方

一旦、社会的事象の見方と社会的事象の特色や意味の考え方を整理して、でも、相互作用で、切り離すべきものではない。これをなくしてしまうと社会科ではなくなる。時間的にその人が努力してきたのか、どこまで影響が及んだのか…こんなことが入り混じっているの、一人の人間の思いや願いを考えるだけではいけない。

これをやっていくと、中学、高校での歴史・地理・公民につながれるということである。地理的な見方、歴史的な見方を中学校の教科調査官と議論しているところである

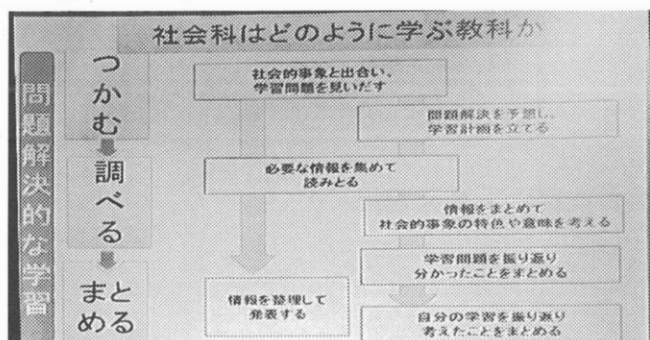
ただ、社会科で忘れてはいけないのは、工夫や努力を教えるのではない。それは研究の視点で見ると、その人が果たした意図や目的が分かって、働きが分かるということ。

社会的事象の意味も同じこと。社会にとってどんな意味があるかということ。根拠=結論にしているということ。この間に、理由づけを入れる必要がある。

結局、社会科では推論できることが大切。限られた情報で社会を推論できることが大切なのは間違いない。

#### 5 社会科をどのように学ぶか

アクティブ・ラーニングを充実させていく。そのために、知識の習得のみならず、思考力・判断力・表現力等や、主体性を持って多様な人々と協働する態度を養うこと。子供が学習の見通しを立て、主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組み、学習したことを振り返る活動が必要だということ、である。

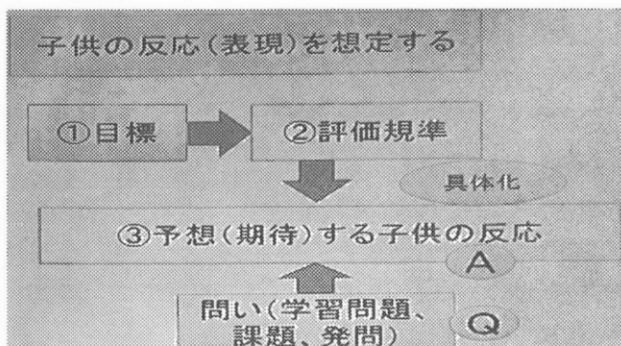


学習問題については、もっと吟味が必要。疑問そのものを書いて学習問題にはならない。何を調べていこうかということまで見こさないと設定できない。学習問題を追究、まとめると、単元の目標を実現する構造になっている。1サイクルとは限らず、2サイクル3サイクル…もあり得る。目標の実現につながっていることが大切。学習問題の立て方はいろいろあります。またの機会にする。

#### 6 問題解決的な学習の充実

小学校学習指導要領実施状況調査の結果から見ると、「なぜ昔の文化が受け継がれているのか」という問題では8割の子どもが答えられている。記述の中で事実を通り抜けなくてもいいからである。答えを先に言わせると言えるが、事実を基にするようにすると、とたんに言えなくなる。ここが社会科での思考・判断・表現の一番大切なところで、事実を基にすることを大切にしなければいけない。そのためには、まとめを子どもの文脈で書かせ、子どもの足跡を残してもらいたい。

#### 7 評価について



評価規準を設定しなければいけないことは分かっているんだけど、すべてをBとする具体的な子どもの姿を三つぐらいは用意しておきたい。そして、学習問題や課題、発問の中でその姿を出せるしかけを用意しておきたい。

#### 8 おわりに

社会科を学ぶと何ができるようにあるかを考えてほしい。能力面では？態度面では？と整理していきたい。社会科の授業で学んだことをもとにして、自分たちがすべきことを考えることがあるかというアンケート調査に小学4～6年生があると答えている。このような大きな意味のある教科として皆さんにも力を貸していただきたい。

# 「社会科フォーラム2016」開催報告

## 1 目 的

- ・各郡市の今年度実践の交流，参会者による切磋琢磨する議論，講師の方の講評を通して，本年度研究の総括を行う。
- ・実践から理論へのフィードバックを通して，来年度以降，平成28年度全国大会に向けての研究の方向性を探る。
- ・香社研の研究を広く県内外や他教科の先生方，社会科系の学生にも広める。

参会者各々が共感できる実践に投票し，最も得票数の多い実践にゴールドカップを実践提案者所属の郡市社研に授与することを通して，次世代を担う若手のがんばりを賞賛し，研究を広める場とする。

また，深い教材研究や理論を背景にプロの技が光る先見性・提案性の高い実践を，県外の先生に選考していただき，シルバーカップを実践発表を行った郡市社研に授与することを通して，研究を深める場とする。

2 日 時 平成28年2月20日（土）13:00～17:00

3 場 所 香川大学教育学部附属高松小学校 第一体育館

4 参加対象 社会科教育に関心がある方。 ※ 県内外，香社研会員・非会員，職業は問わない。

## 5 日 程

12:30～13:00 受付（飲み物と鉛筆，資料を配布）

### 【開会の部】

13:00～13:20 開会行事（会長挨拶，カップ返還，フォーラムの進め方）

13:20～13:30 デモンストレーション（1分×9本）

### 【発表の部】

#### ○第1ラウンド

13:40～14:00 提案発表① （20分×3本）

14:00～14:10 質疑応答①，意見（約10分）

#### ○第2ラウンド

14:20～14:40 提案発表② （20分×3本）

14:40～14:50 質疑応答②，意見（約10分）

#### ○第3ラウンド

15:00～15:20 提案発表③ （20分×3本）

15:20～15:30 質疑応答③，意見（約10分）

#### ○投票

15:30～15:45 投票・休憩

### 【県からの提案・報告の部】

15:45～16:05 研究部提案「次年度の研究の方向」

16:05～16:15 質疑・応答

### 【閉会の部】

16:15～16:35 指導助言（山内主任指導主事）

16:35～16:45 県外参加者より講評

16:45～17:00 閉会行事（優勝カップ授与，副会長挨拶），事務連絡

### 【懇親会】

17:30～ 「仲見世」瓦町店 参加者55名

研究フォーラム 2016

## 社会科が変わる！ 社会科が変える！

何が正解か分からない新しい時代の教育。「何をどうしたらいいの？」そんな悩みを，解消できるのが社会科研究フォーラム！  
今年も，最新，採れたて，高品質の実践を取り揃えております！

【目玉1】

県内各郡市の  
採れたて実践  
全8本＋α

【目玉2】

鉛筆投票！  
参会者が選ぶ  
魅力ある実践

【内容解説】

【目玉1】 県内を代表する実践家が，本年度の実践を分かりやすく紹介。

|           |           |            |            |
|-----------|-----------|------------|------------|
| 小豆<br>坂・綾 | さ・東<br>丸亀 | 高松北<br>仲・善 | 高松南<br>三・規 |
|-----------|-----------|------------|------------|

【目玉2】 参会者が自ら鉛筆を投票し，魅力ある実践NO1を決定！

【金カップ】

参会者の鉛筆投票に  
よって決定するカップ

【銀カップ】

県外の参加者の協議  
によって決定するカップ

■日時 平成28年2月20日（土）13:00～17:00

■場所 香川大学教育学部附属高松小学校 体育館

■講師 香川県教育委員会義務教育課 山内 邦男先生

■参加費 無料

■参加資格 なし（教科に関係なく，どなたでもご参加できます。）

お車で会場への方は，道路端へ駐車ください。なお，その他お問い合わせは，  
附属高松小学校（087-091-7108） 原田裕志までお願いいたします。

## 6 活動の実際

### 【開会の部】

○開会行事…会長挨拶があり、その後、カップの返還がありました。

○デモンストレーション…各郡市が趣向を凝らしたプレゼンを1分間行いました。

【発表の部】 8郡市＋希望枠の9実践が提案されました。

| 郡市  | 提案者       | 学年 | 单元名                            |
|-----|-----------|----|--------------------------------|
| 小 豆 | 上嶋 光晴 先生  | 3年 | はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人～       |
| さ・東 | 久保田 直寛 先生 | 4年 | ごみのしよりと利用                      |
| 高松北 | 古川 夕希子 先生 | 4年 | ごみのしよりと利用                      |
| 高松南 | 山階 史子 先生  | 5年 | これからの食料生産とわたしたち                |
| 坂・綾 | 岡野 綾香 先生  | 3年 | 農家の仕事                          |
| 丸 亀 | 小山 沙織 先生  | 3年 | はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人～       |
| 仲・善 | 尾崎 純一 先生  | 5年 | あたたかい土地で生きる～台風との闘い・今帰仁スイカを通して～ |
| 三・観 | 大平 晃司 先生  | 5年 | 水産業の盛んな地域                      |
| 希望枠 | 石橋 奈生子 先生 | 3年 | はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人～       |



### 【県からの提案・報告の部】

○研究部提案「H28 年度全国大会に向けての研究の方向」

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 河田祥司

### 【講評・指導助言】

○講 評、研究への指導・助言

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 山内秀則 先生

○県外の先生方からの講評およびシルバーカップの発表

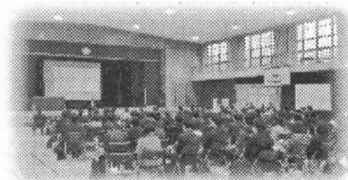
松山市立湯山小学校 校長 渡部浩美 先生

愛媛大学教育学部附属小学校 教諭 白石貴士 先生

高知市立潮江小学校 教諭 細川晃 先生

高知大学附属小学校 教諭 久武桂津代 先生

鳴門教育大学附属小学校 教諭 佐藤章浩 先生



### 【表彰式】

金賞・・・高松北(古川先生) 希望枠(石橋先生)

銀賞・・・三 観(大平先生)

### 【閉会式】

○挨拶 羽座則史校長先生(28 年度夏季研開催郡市代表)



## 7 成果と課題

本年度も休日開催に関わらず、100名を超える会員の皆様のご参加を頂きました。回を重ねるごとに、質と量、両面の向上を実感します。さらに、今回は、県外の校長先生や事務局の先生方もご参加くださり、研究と親睦を深めることができました。どの郡市も県本部の提案を受けながらも独自の研究を進められ、質の高い御提案をしてくださいました。先生方の実践をもとに、これからも引き続き、理論の修正を行いたいと思います。

ご多用の中、明解なご指導をくださいました、義務教育課 主任指導主事 山内秀則先生、貴重なご提案をしてくださいました各郡市の先生方に深く御礼申し上げます。





